



Title	二つの北海道小作法草按竝に理由書
Author(s)	小林, 巳智次
Description	資料
Citation	北海道帝國大學法經會法經會論叢, 8, 249-295
Issue Date	1940-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/10685
Type	departmental bulletin paper
File Information	8_p249-295.pdf



二つの北海道小作法草按竝に理由書

小林 巳 智 次

目 次

小 引

一 北海道廳案「北海道小作條例」草按竝に理由書

二 内務省案「北海道小作法」草按竝に理由書

小 引

茲に公表するものは、明治三十一年五月下旬に出來上つた北海道廳案「北海道小作條例草按理由書」及び内務所案「北海道小作法草按理由書」の全文である。道廳がこの事業に着手したのは明治二十九年であるが、その前年から既にぼつ／＼準備して居たらしい。かくして外國法の研究の外に、道内農村の實情をも具さに調査し、最初は道廳の勸業技師を兼任されてゐられた札幌農學校教授新渡戸稻造氏の指導の下に事業は企てられたが、博士は中途病のために札幌を去られたので、其の門弟にして道廳屬たりし清水、相澤兩農學士等を中心として着々進捗して三年の後成案を得るに至つた。之れと同時に、別に内務省に於ても「北海道小作法」案を作製し、兩案の

比較研究なども行はれたのである。然るに同年春未曾有の大洪水に見舞はれ道廳はこの事業を願ういとまなく、遂に中絶するに至つた。

以上の事實は其の後永く閑却され、道廳の火災のために關係文書の一部は焼失し或は散逸するに至つて危くも全く永久に抹消されんとしたのであるが、偶々昭和五年末、當時第二次道史編纂事業に従事中的高倉學士（北大農經教室助手、現在助教授兼司書官）が其の資料を發見されたので、私は之れに基いて更に同學士と共に種々調査研究の結果とりあへず、事業の經過と道廳案の本文のみを翌昭和六年春初めてこれを學界に發表した¹⁾。かくして三十有餘年間塵にまみれて埋もれてゐた貴重な文献と共にこの事業の大體は世に明らかにされたのである。其後第一次道史編纂事業に主任として活躍された故河野常吉氏の藏書中に本草按理由書の印刷本を發見し之れに依つて益々内容の確實性を認むるを得た。

斯様にこの事業は不幸にして完成されなかつたが本邦小作立法史上看過し得ないものである。而して、或る學者のいふ様に「道廳の公けの仕事として着手されたものではなく、二三の廳吏の先覺的研究の成果としてなされたものである²⁾」と速斷することが正鵠を失してゐることは今更絮説するまでもあるまい。尙ほ其後完成された新編北海道史は私共の研究に従つて其の事業の顛末と道廳案の條文を掲げてゐる³⁾。今回、更めて道廳案及び内務省案の本文ならびに理由書をあはせて始めて公表することにした。兩案の比較對照に關する分は省略した。

惟ふに小作法の制定は依然として我國農業立法として最も重要な懸案である。小作調停法、農地調整法、並に最近設けられた小作料統制令等の如き、手續規定か又は部分的の實體規定のみでは、決して問題は完全に解決されるものではない。且つ從來知られた公私の小作法案にして理由書の附せられたものは恐らく本案のみであらう⁴⁾。従つて將來の立法に臨んで參考資料として顧る可き點は尠くないと信ずる。種々の事情により永く公表を差控えてゐたが漸くその機會を得たことを喜ぶ次第である。

（昭和十五年二月一日）

- 1) 小林、高倉共稿 本邦に於ける近代的小作立法運動の先驅 札幌農林學會報102號
2) 澤村廉氏 農業土地政策論（昭和八年十月）77頁
3) 北海道廳 新撰北海道史 第四卷通説三 429乃至508頁
4) 拙稿 農地關係法案の史的考察（協同第二卷第八號）6頁參照。

一 北海道廳案「北海道小作條例」草案竝に理由書

北海道小作條例制定ノ理由

國ノ隆盛ヲ致シ民ノ幸福ヲ増進スルノ途ハ殖産ノ發達ヲ圖ルニアリ殖産ノ發達ハ農工商業ヲ振起スルニアリ就中農ハ諸業ノ基礎重セサルヘカラス古來我國ハ豐葦原瑞穂國ト稱ヘ農ヲ以テ立國ノ大本トナシ國家ノ富源一ニ茲ニ據レリ而シテ其ノ起源タル遠ク之ヲ天祖降臨以前ニ發シ其業ノ齊備ニ就ケルモ亦古シ上ハ畏クモ萬乘ノ至尊ヨリ下ハ庶民ニ至ルマテ田力ノ重スヘキヲ知り稱シテ大寶トナシ思ヲ焦シ意ヲ注キテ之カ改良進歩ヲ計ルコト既ニ二千有餘年ニ達シ加フルニ土地豐饒ニシテ氣候中和風雨時ヲ得テ五穀盛熟シ實ニ天賦ノ寶土ナリ然レトモ繚テ我農業界ノ狀況ヲ顧ミレハ年豐カニシテ民饑ニ泣キ天時ヲ得テ人益々窮スルノ慘狀ヲ呈スルハ眞ニ痛歎ノ至リナリ蓋シ其因テ來ル所以ヲ考フルニ原因種々アルヘシト雖思フニ我國ノ農業タル徒ラニ舊慣ヲ墨守スルト農民興業ノ利益ヲ辨知セサルト假シ之ヲ辨知スルモ其資本供給ノ途ナキト及ヒ農業ノ經營不完全ナルトハ我國農業ノ改良發達ヲ妨害セル主因タリシヤ疑フヘカラサルナリ若シ果シテ然リトセハ農民ノ教育ヲ普及シ學理ノ應用ヲ務メ技術ノ改良ヲ計リ農業資金供給ノ機關ヲ設備スルハ至大ノ要務ニシテ此等ハ業既ニ其端緒ヲ開キ今ヤ著々其歩武ヲ進メントセリ殊ニ此等ノ方法タル

短時日ヲ以テ容易ニ成功スルモノニアラス須ラク漸ヲ追テ進ミ其効ヲ他日ニ期セサル可ラス而シテ我國農業上ノ急務ハ實ニ其經營ノ完備ヲ圖ルニアリ殊ニ小作制度ノ改良ヲ圖ルニアリ國家ノ經濟上自營農業ト小作農業トノ利害得失ニ就テハ世既ニ定論アリ元來農業經營ノ始源ヲ考フルニ何レモ皆自營農業ニシテ小作農業ナルモノナカリシナリ然レトモ社會ノ變遷ト經濟上ノ關係トハ小作農業ナル一經營法ヲ生スルニ至レリ小作農業ハ自營農業ニ比スレハ國家ノ成立上及ヒ經濟上ニ於テモ其利得ヲ企テ及フヘキニアラス故ニ古來歐米諸州及我國ニ於テモ此制度ノ撲滅ヲ主張シ又之ヲ實行セシコトアリト雖此等諸國ニ於テ今日尙依然トシテ小作農業ノ實行セラル、ハ經濟上此制度ノ必要廢スヘカラサルモノタルコトヲ實證スルニ餘リアリ目下我國ノ農業界ニ於テハ所有地積ノ狹隘ナルト農業ノ資金ニ乏シキトハ土地ノ賣買讓與ヲシテ益々頻繁ナラシメ年々自營農業者ノ數減シテ小作農業者ノ増加シツ、アルハ統計ノ明示スル所ナリ而シテ小作農業ニ於ケル地主小作人間ノ權利關係ノ如キ殆ソト一方ニ偏シ其契約モ多クハ口頭ニ止マリ稀ニ成文ニナルモノアリト雖只僅々ニ小作料額小作料納期等二三ノ條項ヲ定ムルニ過キスシテ與奪ノ全權ハ無條件ニ地主ノ掌握スル所ナリ茲ニ於テ小作人ハ憚々トシテ只管地主ノ意ニ媚ヒ其愛憎ノ爲メニ進退セラレンコトヲ是レ懼レトス

地ヲ改良スルカ爲メニ資本ヲ投下シ收利ヲ永遠ニ期シテ地方ヲ發達セシムルカ如キ妙味ト愉快ト念トヲ生セス只目前ノ小利ヲ得ルニ汲々タルノミ是レ畢竟我國小作制度ノ不備不完ナルニ基因スルモノニシテ我國農業ノ進歩發達ヲ圖ラント欲セハ須ラク先ツ小作制度ヲ改善セサル可ラサルハ今日輿論ノ認識スル所ナリ殊ニ我北海道ノ如キハ之ヲ舊開地ナル府縣ノ農業ニ比スレハ小作農業ノ性質狀態甚タ異ナル所アリ今其二三ヲ舉クレハ

一、府縣ニ於テハ地主小作人共ニ祖先以來同村ニ居住シ相互間能ク個人ノ性質ヨリ家族ノ多少財産ノ有無其他微細ノ頭ニ至ルマテ知悉スルヲ以テ充分信用ノ上土地ノ貸借ヲナシ得ルト雖本道ニ於テハ地主小作人間一面識タモノキモノ、只契約ニ依リテ其業ニ從事スルモノナルコト

一、本道ハ開墾小作其主ナルモノナレハ地主ハ開墾料ヲ給シ歛下年限ヲ定メ住家食料費ヲ貸與シ其他百般ノ保護ヲナス等府縣ニ於ケル小作ト其趣ヲ異ニシ利害ノ及ホス所輕々ニアラサルコト

一、本道ハ新開地ニシテ年々新ニ土地ヲ墾シ排水ヲ通シ疏水ヲ設ケ道路ヲ開キ橋梁ヲ架シ其他柵籬家屋ヲ建設スル等土地ニ永續スヘキ改良事業ノ施設セラル、モノ多ク從テ賠償補償等ノ起ルコト

一、新開地ハ土地ノ改良、農村ノ發達、交通ノ機關等長足ノ進歩ヲナシ地價ノ變動急速ニシテ從テ小作料ノ如キモ屢々變更セラル、コト

一、本道ニテハ官廳ヨリ貸付ヲ受ケタル土地ニ對シ小作契約ヲ結フモノ多クシテ既墾所有地ノ小作契約トハ其趣キヲ異ニスル場合アルコト

一、本道ニ於テハ大地積ノ貸付多キヲ以テ將來大農の小作農業ノ起ルヲ豫期セサル可ラス大農場ノ貸借ハ重大ノ關係ヲ有シ一朝紛議ヲ生スルカ如キ場合アラハ利害ノ及ホス所少々ニアラサルヲ以テ最モ安全ナル方法ヲ取ラサル可ラサルコト

一、府縣ニテハ小作解約、小作料ノ減免、土地改良其他小作ニ關スル事項ハ一ノ習慣アリテ之カ制裁ヲナスト雖本道ハ府縣各地ノ人民相集リテ一村ヲ形成シ耕牧ノ方法スラ既ニ互ニ其趣キヲ異ニセリ且ツ未タ一定ノ習慣ナク小作契約上ニ制裁ヲ加フヘキモノナキコト

一、本道小作人ハ其地ニ永住ノ觀念ヲ缺クノミナラス新開地ニ免レサル種々ノ惡弊ヲ有スルモノ少ナシトセス小作人カ多分ノ負債ヲナシテ逃亡スルト他ニ貸付地ヲ得テ小作解約ヲナスノ頻繁ナルトハ地主ノ最モ困難スル所ナリ又地主ニアリテモ往々苛酷暴斷ノ處置ヲナスモノアレトモ此等ニ對シテ社會的制裁ノ加フヘキモノナキコト

以上列記セル諸項ハ本道ノ小作農業カ府縣ト其情態ニ差異アル要點ニシテ熟ラ其基因スル所ヲ查覈セハ一日モ之ヲ忽ニスヘカラサルモノアリ我國小作制度改善ノ必要ナルコトハ前既ニ之ヲ說ケリ而シテ其制度ヲ改善シ農業ノ發達進歩ヲ圖ラントセハ須ラク歐米各國ニ於ケル小作制度發達ノ事跡ニ徴シ我

國古來ノ慣習ニ鑑ミ以テ完全ナル小作法ヲ制定スルニアリ今
ヤ夫レノ商工等ノ實業ニ關スル法典ハ實ニ汗牛充棟モ膏ナラ
ス而シテ農業特ニ小作農業ニ關スル法典ノ發布ナキハ何ソヤ
是レ建國以來二千有餘年ノ慣習ハ府縣到ル處各特種ノ發達ヲ
爲シ一律ノ下ニ網羅スルノ容易ナラサルモノアルヲ以テナリ
且ツ其慣習ハ宛然タル不文法ニシテ地主小作人相互ノ間ニ於
テ決シテ之ヲ案スコトヲ得ス

裁判所ノ判決例モ亦地方特段ノ慣習ハ常ニ採用スル所ナリ

竊テ本道小作農業ヲ見ルニ前諸項ニ掲ケタル如ク近ク二十餘
年ノ發達ニ屬シ而カモ其移住民ハ各其原籍ヲ異ニシ一モ慣習
トシテ見ルヘキモノナク地主小作人間ノ關係ハ毫モ舊誼ノ存
スルモノナケレハ到底德義の社會上ノ制裁又ハ不文ノ法律タ
ル慣習ニ委スヘカラサルモノアリ剩ヘ元來創設新開ノ土地ナ
ルヲ以テ當事者間ノ權利關係ハ實ニ複雜糾紛ヲ極ム茲ニ於テ
カ本道小作農業ニ付現在ヲ酌量シ將來ヲ觀察シ或ル點ニ於テ
ハ制裁ヲ設ケテ弊害ヲ矯メ或ル點ニ於テハ特ニ保護ヲ與ヘテ
安全ヲ期シ以テ我カ立國ノ大本タル農業ノ改良發達ヲ企圖セ
サルヘカラス是レ本條例ヲ制定セル所以ナリ

北海道小作條例草按理由書

總則

第一條 本條例ハ北海道ニ於ケル耕作又ハ牧畜ノ目的

ヲ以テ土地ノ貸借ヲ爲スモノニ適用ス

二つの北海道小作法草按理由書

本條ハ本條例ノ施行範圍ヲ定メタルモノナリ單ニ耕種又ハ牧
畜ノ用ニ充ツル借地ニモ適用スルモノトセハ自家消費ノ爲メ
家宅ノ周圍ニ蔬菜ヲ栽培シ又ハ數羽ノ家禽數頭ノ畜類ヲ飼養
スルモノモ等シク本條例ノ羈束ヲ受ケサルヘカラス此ノ如キ
ハ徒ラニ繁雜ヲ招クニ過キス此種ノモノハ實ハ農業經營ノ目
的ニアラスシテ宅地ノ目的ヲ以テ貸借セルモノナリ故ニ本條
例ハ耕作又ハ牧畜ノ目的ヲ以テ土地ノ貸借ヲナスモノニノミ
適用セリ今左ニ本條例中ノ文字ニ付キ解釋ヲ要スルモノヲ掲
ケン

一、耕作トハ植物ヲ栽培スル爲メ土地ニ人工ヲ施スタ云フ

例ヘハ田畑ニ穀類、蔬菜花卉、綿桑、茶等其他ノ果樹ヲ作
ルカ如キ是レナリ故ニ耕作ナル文字、中ニハ葡萄園、林檎
梨園等ノ貸借ヲモ包含セシメタリ

二、牧畜トハ牛馬羊豚家禽等ヲ飼養蕃殖セシムルヲ云フ故ニ

此文字ノ中ニハ牧草地ノ貸借ヲモ包含セシム

林業ノ如キハ理論上耕作ト謂フヘキモ慣習上之ヲ耕作ト謂
ハサルカ如シ是レ蓋シ造林ノ法未タ發達セサルヲ以テ別業
トシテ取扱フニ依ル故ニ本條例ハ林業ニハ適用セサルナリ
其北海道ニ於テトセルハ本條例ヲ施行スル土地ノ區域ヲ限
定セルモノナリ

第二條 本條例ニ地主ト稱スルハ小作契約上土地ノ貸

主ヲ云ヒ小作人ト稱スルハ其借主ヲ云フ

本條ハ地主小作人ノ用語ニ付キ規定セルモノナリ普通地主ト
稱スルハ其土地所有者ヲ指示ス然レトモ本條例施行上單ニ專

有者ノミヲ指ストキハ其不便少ナカラサルヲ以テ契約上貸主ノ位置ニアル者ヲ地主ト看做シ借主ニ當ルモノヲ小作人トセリ即チ第一小作人ト第二小作人ノ契約ニ付テハ第一小作人ヲ地主トナシ第二小作人ヲ小作人ト認ム、故ニ土地ヲ借受ケ已レ耕作ヲナス之ヲ小作地トナシテ再ヒ小作人ニ貸與スル者アラハ其者ハ所有者ニ對シテハ小作人ニシテ第三者ニ對シテハ地主タルナリ畢竟此ク規定セルハ便宜上ニ外ナラス

第三條 本條例ニ年度ト稱スルハ曆年ニ依ル

本條ハ小作年度ヲ規定セルモノナリ本條例中ノ處々ニ於テ年度ナル文字ヲ使用セリ故ニ其年度ハ何レニヨルカヲ規定シ置クノ必要アリ例令ハ十二月ヲ以テ一年度ト定ムルトキハ夏期ニ契約セルモノハ復タ契約満期ノ年ノ同時期マテ其土地ヲ使用スルコトヲ得ヘク從テ作物生長中ト雖返地セサルヘカラサル場合アラン故ニ小作人ハ滿期ノ年ニ耕作スルコトヲ欲セサルヘク新入小作人ニ取リテモ亦夫ニ不便ナルヘキヲ以テ解約等ノ如キハ收穫ノ後耕作ノ始ノ間ヲ以テ最モ適當トス而シテ之ヲ農業年度ト稱ス本條例ニ於テハ乃チ此農業年度ヲ以テ小作年度トナシ曆年ニ從ハシムルコト、セリ今普國ニ於ケル年度ニ關スル議論ヲ舉ケテ農業年度ト小作年度ト符合セシムヘキ理由ヲ參考ニ供セン

小作年度ハ農業年度ト同一ニシ農業年度ノ中間ニ於テ小作年度ヲ終ルカ如キコトナカラシムルハ双方ノ便益ナルヘシ農業年度ハ曆年ト終始ヲ同クスルコトヲ得ヌ何トナレハ曆年ノ終ニ於テハ貯蓄物ノ目錄ヲ調製スルハ至難ナリ此目錄

ヲ容易ニ調製シ得ルノ時ヲ以テ農業年度(若クハ小作年度)ノ終リト定ムヘシ六月ハ農業上別ニ功迫ノ事ナキトキナレハ此月ヲ以テ農業年度ノ終リト爲スハ最モ適當ナリトス此ノ如ク貯蓄物ノ上ヨリ考察シテ農業年度ノ終リヲ定ムルニ便利ナル時期ハ小作地引渡シ若クハ取返シノ事ヲ處スルニモ亦最便利ナル時ナルヘシ特ニ此時期ハ牧草首蓄ノ收穫ニ着手セザレハ一層利トス

余ハ首蓄牧草ノ貯蓄如何ノ問題ヲ斟酌シ又北部ニ於テ氣候ノ例年ヨリ一層暑熱ナルトキハ六月下旬ニ穀物ノ收穫ニ著手スルヲ得ヘク又南部ノ地方ニ於テ毎年六月下旬ニ收穫ニ著手シ六月初旬茶種ヲ收穫スヘキ場合アル等種々ノ事情ヲ觀察シテ小作年度(若クハ農業年度)ノ時期ヲ定メテ六月一日トナサンコトヲ發議セント欲ス然レトモ近世「ヨハニス」祭ヲ期トスルノ説ヲ贊成スルモノ多ク且實際ニ於テモ此説ヲ採用スルノ傾向アリ其證ハ普國政府ハ千八百六十六年ニ於テ其管理ニ歸シタル官有地ヲ「ヨハニス」祭ヲ期トシ小作地ニ貸與シ「ペトリ」祭期ヲ除クノ外ハ一切他種ノ期限ヲ廢シテ悉皆「ヨハニス」祭期ニ改メタリ「ゴイチンゲン」ノ大學教授「ドレクスレル」氏ハ決算ノ便利ヲ圖リ七月一日ヲ以テ農業年度ノ期トナサンコトヲ欲シタルトモ北部ノ地方ニアリテハ六月ニ入ルモ茶種牧草等ノ收穫ニ著手セス又穀物ノ收穫期ニモ迫ラス故ニ余ハ六月一日ヲ以テ此期ト定メンコトヲ主張ス

以上ハ普國小作條約新論ニ載スル所ナリ然ルニ本道ハ普國ニ

比セハ農業ノ組織風土氣候等大ニ異ナリ從テ小作年度（若シクハ農業年度）モ異ラサルヲ得ス本道ノ如キハ氣候寒冷土地ノ開拓「追年」ニ屬シ茶種秋蒔小麦等ノ外ハ悉ク春期ニ播種シテ十一月中旬迄ニ收穫シ十二月ノ終リマテハ大抵賣却スヘシ且ツ本邦ハ概ネ十二月ヲ以テ諸業ノ總計算期ト定ムルヲ以テ他業ニ對シ此十二月即チ曆年ニ從フヲ以テ大ニ便宜ナルヲ認ム又三月ヲ以テ小作年度ト定ムルトキハ十二月中ニ賣却シ能ハサリシモノモ悉ク賣拂フコトヲ得ルト未タ積雪中ニシテ農業ニ從事セサルトノ便アリト雖本道小作人中ニハ往々性質善良ナラサルモノ多ク一度生産物ヲ貨幣ニ化スルトキハ之ヲ消費シテ遂ニ小作料ヲ納メサルモノアリ故ニ地主ニ於テ收穫セルヤ否ヤ直チニ小作料ヲ徵收スルコトヲ力ムルハ實例ニ徴シテ認ムル所ナリ

又三月トナストキハ四月ヨリ耕作ニ從事スルヲ以テ新入小作人カ耕作準備ニ不便ヲ生スルコトナシト云フヘカラス此ノ如キ理由ナルニ依リ小作年度ハ曆年度ニ從フコト最モ利益アルヲ以テ本條例ハ曆年ニ依ルコト、セリ

第四條 小作人ハ小作料ヲ拂ヒ他人ノ土地ニ耕作又ハ牧畜ヲナスノ權利ヲ有ス

本條ハ小作權ナルモノ、定義ヲ與ヘタルモノナリ蓋シ小作權ハ如何ナルモノナリヤノ疑問ナカラシメタルモノニシテ民法第二百七十條ノ趣旨ヲ襲用セリ

第五條 小作人ハ小作權ノ在續期間内ニ於テ其權利ヲ讓渡若クハ轉貸セントスルトキハ地主ノ承諾ヲ要ス

但永小作權ハ此限ニアラス

地主ハ其土地ヲ小作人ニ貸與セル以上ハ之カ使用權ハ充分ニ行使セシメサルヘカラズ然レトモ古來土地ナルモノハ他ノ財產ニ比シ特別ノ取扱ニ出テ殊ニ小作農業ノ如キハ其借受人ニ於テ自ラ耕作スルヲ善トス外國ニ於テハ一手ニテ多數ノ土地ヲ借受ケ之ヲ又小作セシムルモノアリト雖是レ大ニ本邦ト事情ヲ異ニスルモノアリ小作人自ラ耕作スルト之ヲ轉貸シテ利益ヲ得ルトノ良否ハ農業經營上自ラ明カナル所ナリ然レトモ轉貸ハ經濟上若クハ家事上止ムヲ得サル場合ヨリ生スルモノナレハ絕對的ニ之ヲ禁止スルコト能ハサル所ナリ故ニ轉貸ハ之ヲ許可スヘキ場合アルヘキモ地主カ貸地スルニ於テハ其小作人ヲ信用シテ契約セルモノナレハ若シ其小作人カ轉貸セントスルトキハ之ヲ地主ニ通知シ承諾ヲ受クヘキコト兩者ニ取リテ安全ノ方法ナリ殊ニ第二十八條ニ於テ怠納處分差押ノ時ニ轉借人ノ物ハ此限リニアラスト規定セリ故ニ實ハ又小作人ノ作物ナリトモ轉貸スルコトヲ地主ニ於テ知ラサルトキハ尙ホ之ヲ小作人ノ作物ト認メ遂ニ又小作人ノ損害ニ歸スル場合ヲ生スルコトナシトセス是レ本條ニ於テ轉貸ハ地主ノ承諾ヲ要セシメタル所以ナリ

但書ハ永小作權ニ除外例ヲ認メタルモノニシテ蓋シ民法ト抵觸ヲ避ケタルモノナリ

第六條 小作權ノ讓渡若クハ轉貸ニ因リ生スル損害ハ地主ニ對シ小作人其責ニ任ス

前條ニ説明セル如ク地主カ轉貸ヲ許可スルハ畢竟其直接小作

人ヲ信用シタルニ過キスシテ第二小作人トハ信用及契約上蓋モ關セサル所ナリ故ニ第一小作人ハ第二小作人ノ行爲ニ因リ生シタル損害ハ其責ヲ免ル、コト能ハサヘシ若シ第一小作人カ知ラストシテ第二小作人カ直接地主ニ義務ヲ負フコト、セハ賠償等ノ場合ニ於テ第二小作人ハ直接ニ地主ト交渉セサルヘカラス然ルニ元來地主ト第二小作人トノ間ハ契約ナキモノナレハ順序ヨリ云フトキハ第二小作人ハ第一小作人ト第一小作人ハ地主ト協議セサルヘカラサルナリ故ニ紛議煩雜ヲ免レンカ爲メ第二小作人ノ行爲ヨリ生セシ損害ハ契約當事者ナル第一小作人カ負擔スルコト、規定セリ勿論第一小作人ハ第二小作人ニ賠償ヲ要求スルコトヲ妨ケス是レ第一小作人ハ第二小作人ニ對シ契約上地主ノ位地ナルコトハ第二條ニ規定セル所ナリ

第七條 第十三條ニ依リ所轄行政廳ノ登錄アルモノハ其ノ登錄事項ノ債權ニ關シテハ地主若クハ小作人ハ他ノ債權者ニ對シ先取特權ヲ有ス

本條ハ此條例ニ於テ管轄行政廳ノ登錄ヲ經タルモノニ對シ特段ノ權利ヲ認メタルモノニシテ證據力ノ確實ナルモノニ特權ヲ與フルハ理ノ然ラシムル所ナリ即チ第十四條ニ從ヒ第十三條ノ列記事項ヲ登錄スルモノナレハ其登錄セル事項ノ債權ニ關シテハ他ノ債權者ノ債權ニ對シ優先權ヲ認メタルナリ若シ本條ノ優先權ヲ認メサルニ於テハ第十四條ノ登錄ハ徒ラニ繁雜ナル手續ヲ規定セル事トナリ更ニ其効果オキニ至ルヘケレハナリ而シテ第十三條ノ列記事項ヲ登錄スルハ獨リ地主ノ債

權ノミナラス小作人ヨリ地主ニ對スル債權モアルヘキモノナレハ其登錄事項ノ債權ノ効力ハ當事者平等ニ認メタルモノナリ

第八條 小作人家資分散又ハ破産ノ決定ヲ受ケタルトキハ其當日迄ノ小作料ニ付地主ハ他ノ債權者ニ對シ先取特權ヲ有ス

本條ハ地主カ小作人ヨリ受取ルヘキ小作料ニ付他ノ債權者ヨリ優先權アルコトヲ認メタルモノナリ抑モ小作料ノ性質タル小作人ニ於テハ一般ノ債務ト異リ其生活ノ根據トスル所ノ小作地ノ借料ナレハ其責ニ於テモ亦特段ノ關係アルモノナリ殊ニ小作料ハ他ノ債務ノ如ク臨時ノ必要ニ因テ起ルモノニアラス何人ト雖モ小作人ト財産上ノ關係ヲ爲スニ於テハ其資力ヲ知ルト同時ニ當然其小作料支拂ノ負擔アルコトヲ知り得ヘキ性質ノモノニシテ法律ハ斯ル確實ナル債權ニ對シテハ特別ノ保護ヲ與フルノ必要アリ故ニ小作人カ家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ地主ノ小作料ニ付本條ノ權利ヲ認メタルモノナリ其當日迄トナセルハ事實上土地使用ニ對スル小作料ニ付テノミ特權ヲ附與セルモノニシテ若シ未來ノ小作料ヲ包含セシムルコト、ナリテハ他ノ債權者ノ權利ヲ毀リニ懸懸スルコト、ナリ其權衡ヲ失スルヲ以テナリ

小作人ノ破産宣告ヲ受ケタル場合ヲ規定セルハ小作人ト雖モ時ニ商業ヲ營ムモノナシト謂フ可ラサルヲ以テナリ

第九條 地主他人ノ小作人ヲ誘拐シ又ハ逃亡小作人タルノ情ヲ知りテ小作契約ヲ爲シタルトキハ前地主ニ

對シ其小作人ノ債務辨償ノ責ニ任ス

本道ノ小作人ニ對シ地主ノ最モ困難スル所ハ小作人ノ逃亡ナリ是等小作人ハ地主ヨリ多クノ保護ヲ受ケ債務ヲ負フ者ニシテ他ノ小作地ノ收穫多額ナルカ又ハ保護厚キヲ聞キ地主ニ義務ヲ果サスシテ逃亡スルアリ又往々不徳ナル地主アリテ他人カ折角募集シ保護シ來リタル小作人ヲ甘言以テ己レノ小作人トナシ事實上他人ノ事業ヲ妨ケ自己ハ費用及努力ヲ薄クシテ利ヲ得ントスルアルハ實例ニ徴シ見ル所ニシテ最モ弊害多キモノナレハ之ヲ豫防セント欲セハ此ノ如キ行爲アリタル地主ニ責任ヲ負ハシメサルヘカラス即チ地主ニシテ他ノ小作人ヲ誘拐シタルカ或ハ逃亡小作人タル事情ヲ知テ小作人トセシコト明カナル場合ニハ其地主ヲシテ小作人カ前地主ニ對スル債務ヲ辨償セシムルコト、セリ

第十條 地主小作地所在ノ戸長役場管轄内ニ居住セサルトキハ其土地ニ住居スルモノヲ以テ代理人ト定ム

ヘシ

代理人ノ代理權ヲ限定セルトキハ地主ハ豫メ小作人

ニ通知スヘシ

地主ハ本道市街地若クハ遠隔ノ地ニ居住スルハ多ク見ル所ナリ小作地ト地主ノ住所隔離スルトキハ小作人ト交渉ニ付不審ナカラス地主モ亦小作地ヲ管理スルニハ其附傍ニ管理人ヲ置タコト必要ナリ官廳ヨリ見ルモ亦然リ故ニ地主カ若シ遠隔ノ地ニ居住スルトキハ代理人ヲ定ムルコト、セリ既ニ代理人ヲ定メタル上ハ其代理委任ノ權限ヲ一定スヘキモノナレハ其權

限ハ豫メ小作人モ亦知悉セサルヘカラサルヲ以テ第二項ニ於テ地主ニ通知ノ任アルコトヲ定メタルモノナリ

第一章 小作契約

第十一條 左ニ掲クル小作契約ハ書面ヲ以テスルヲ要ス

一、土地四町歩以上

二、小作料四拾圓以上

三、小作契約期間ノ三年以上ニ渉ルモノ

土地ノ賃借ニ付キテハ總テ書面契約トナスノ正確ナルニ如クナント雖モ副業若クハ菜園トシテ狭小ノ小作地ヲ使用スルモノ或ハ年小作等ノモノニ一々書面契約ヲナサシムルコトハ大ニ煩雜ヲ來シ實際ニ行レサルモノアルヘシ假令之ヲ規定セサルモ當事者カ小作廢止ノ際ヲ虞リ注意ヲナスモノハ書面契約ヲナスコト當然ナリ然レトモ農家カ生活ヲ維持スルニ必要ナル四町歩以上ニアリテハ小作人ハ專業トシテ其地ニ耕作シ依テ以テ衣食スルモノナレハ重大ノ關係ヲ有スルヲ以テ紛議損害等ヲ豫防センカ爲メニハ書面契約トナサシメサルヘカラス然レトモ畜ニ地積ニノミ因ルトキハ市街地近傍ニアル小作地ニ對シテ權衡ヲ得サルコトアリ故ニ小作料ノ方ヨリモ亦之ヲ規定スルノ必要アリ而シテ其標準ハ前段ノ理由ニ依リ之ヲ四町歩ニ取ラサルヘカラス而シテ其程度ハ如何ナル農地ニモ適用スヘキヲ以テ茲ニ一段歩ノ小作料ヲ一圓ト見積リ即チ小作料四拾圓以上ノモノモ書面契約トナスコト、セリ尤モ此一圓

ト見積リシハ甚タ漠トシテ議論ノ存スル所ナラン然レトモ今
 本道小作料ヲ平均セハ恐ラクハ八九拾錢内外ナラン是レ新墾
 地ナルヲ以テ夫ニ其狀況異ナルモノアルニ因ル變次年月ヲ經
 過セハ益々騰貴スヘシ而シテ既墾地等ニ新ニ小作スルモノハ
 其小作料八拾錢ヨリ壹圓五拾錢位ヲ普通トス本道ノ如キハ未
 タ創始ノ土地ニシテ假令全道小作料ノ平均ヲ取ルトモ現時ノ
 モノヲ以テ將來ノ狀況ニ適合スヘカラス故ニ到底正鵠ヲ得タ
 ルモノヲ知ルヘカラス先ツ平均壹圓ト見積ラハ少ナクモ數十
 年間ハ大差ナカラント思考セリ

猶地積小作料ノミナラス契約年限ニヨリテモ亦大ニ關係スル
 所アリ長期ノ契約ニアリテハ假令地積小ナリト雖モ賃借人ニ
 ハ大ナル關係アルヘケレハ期限ニヨリテモ本條例ヲ適用セサ
 ルヘカラス而シテ第十六條ニ於テ契約書ナキ契約ニ於テハ小
 作期限三ケ年ヲ超過スヘカラスト規定セルヲ以テ本條ニ於テ
 三ケ年以上ノモノハ書面契約トナサ、ルヘカラストセリ
 以上ノ三件ハ一小作契約ニシテ之ヲ具備スルモノト云フニア
 ラスシテ其一事ヲ具フルモノハ之ヲ書面契約ト爲サシムルニ
 アリ

第十三條ニ於テ書面契約ハ登錄スヘキ規定ナルヲ以テ如何ナ
 ル小作契約ニモ之ヲ適用スルトキハ却テ弊害ヲ生スヘキヲ以
 テ地積小作料及ヒ期限ヲ限リテ本條ノ規定ヲ設ケシナリ

第十二條 前條ノ書面契約ニハ左ノ事項ヲ掲クヘシ

一、當事者住所氏名

二、小作地ノ種類位置及面積

三、小作地ノ附屬物

四、小作地附屬林ニ關スル事項

五、小作期間

六、小作料ノ種類及額

七、小作料ノ納期及納所

八、契約ノ年月日

九、保證人ヲ定メタルトキハ其住所氏名

十、本條例中特ニ規定セル事項

十一、以上ノ外特別條件ヲ設ケタルトキハ其事項

未開地開墾ノ小作契約ハ更ニ左ノ事項ヲ掲クヘシ

一、墾成年限及開墾年割反別

二、開墾料額及其支拂方法

三、歛下年限

四、小作人保護年限及其保護方法

五、貸附金品ノ返済方法

從來行ハル、本邦小作契約ヲ見ルニ其文面簡ニシテ要領ヲ缺
 クモノ少ナカラス故ニ本條ハ最モ必要ト認ムル契約事項ヲ掲
 ケ必ラス其條項ヲ脱セサル様ニ之ヲ指示セルモノナリ小作契
 約書ノ如キハ唯一ノ證據タルヘキモノナレハ完全ニ記載シ置
 クコト最モ必要ナリ本條例各條中ニ特ニ契約書ニ記入スヘキ
 旨ヲ規定セルモノハ勿論其他特別ノ合意ニ成ル條項ヲモ明記
 スヘキモノトセリ

就中小作地ニアル附屬林ノ伐採及副産物ノ採取ニ付テハ豫メ

契約シ置クノ必要アルヘシ薪構農業用建築物及其他必要ナル改良用ノ爲メ小作人ハ借地内ニ存スル樹木ノ伐採ヲ爲ス權利ヲ有スルモ用材ニ供スヘカラサル立木及農業ノ防禦又ハ風致ノ爲メニ發育セシムヘキ樹木ヲ伐採シ及草樹園又ハ圃上ニ生育スル果樹ヲ害スルコトヲ得ス何ントナレハ此ノ如キ行爲ハ土地ヲ荒廢セシムルニ等シケレハナリ然レトモ小作人ノ消費ニ充ツヘキ枯木等存在スルトキハ薪炭トシテ他ニ販賣スルコト能ハサルモ自家用料トシテ之ヲ許可スルハ差支ナカルヘシ家屋及柵ニ必要ナル修繕用材ハ小作人自辨ヲ以テ修繕スヘキ契約アル場合ト雖モ其終身小作又ハ年期小作ナルヲ問ハス之ヲ伐採スルコトヲ得ヘシ然レトモ此等ノ建築物修繕ハ自己ノ占有ニ移リシ當時ノ借受物ニ對スル場合ノミニシテ借用中ニ自己ノ建設セシモノニ對シテ修繕ヲ要スル場合ニ伐採スルハ穩當ナラサルヘシ此ヘ如キ點ニ付豫メ當時者間ノ合意ヲ表示セシムル必要アリ是レ第四號ヲ規定セル所以ナリ

又第七號ノ納所ノ如キモ近接ノ場所ナレハ敢テ差支ナキモ若シ遠隔ノ所ナレハ納付ニ關スル費用ヲ少ナカラサル場合アラシ殊ニ第二十五條ニ於テ小作料納所小作地ヨリ二里以外ニアルトキハ運搬費等ハ地主ノ負擔タルコトヲ規定セルヲ以テ豫メ之ヲ契約シ置クノ必要アリ

其他各號ニ付テハ一見明瞭ナルヲ以テ説明ヲ附セス

第二項ニ掲クル未開地ノ開墾小作人ニ至リテハ特別ノ性質ヲ有シ小作ノ方法モ亦多少異ナルアリ故ニ是等小作契約ハ左ノ條項ヲ定メ記載セシムヘシ

二二の北海道小作法草按竝に理由書

- 一、墾成ハ何年ニシテ一年間ニ何程ト契約セシムルナリ其ハ時ニ小作人ニシテ懈怠其業ヲ勵マサリシカ爲メニ地主ハ官廳ヨリ返地命令ヲ受クルコトアルヘシ故ニ明カニ契約ヲナシ置カンニハ小作人カ其業ヲ怠ルトキハ契約違反ノ罪ヲ以テ解約ヲ請求スルコトヲ得ヘシ
- 二、開墾料ハ樹林地草原地其他開墾ノ難易ニヨリテ差アリ地主ニヨリ或ハ現金ヲ以テ支拂フモノノ小作料ヨリ相殺スルモノ、食料種子農具ヲ以テ支拂フモノノ種々其方法ヲ異ニス故ニ豫メ明約シ置カサレハ紛議ヲ生シ易スキ性質ノモノナレハ開墾料額及其支拂ヒ方法ヲ契約書ニ明記セシムルノ必要アリ
- 三、畝下年限、本道ノ畝下年限ハ少シモ與ヘサルモノ或ハ一年二年三年位ヨリ尤モ長キハ六年間位ノモノアリ是モ明カニ契約シ置クノ必要アリ
- 四、保護トハ食料農具種子小屋掛井戸堀等ノ費用ニ付キ貸與若クハ給與スルモノナリ多クハ一ケ年間位ニ過キス其方法ニ對シテハ各種ニ付金何圓ト定ムルアリ又ハ食料ノ如キモ男女老幼ニヨリ差等ヲ附シテ貸與スルモノアリテ種々一定セス小作人カ未開地ニ入ルハ其保護如何ニヨリテ契約ヲナスモノ多ケレハ是等ノ件ハ明記シ置クコト必要ナリ
- 五、前號ノ貸與物及其他ノ貸金等ニ付キテハ据置年限ヲ定ムルモノ或ハ年賦償還法ヲ取ルモノアリ又ハ年々ノ收穫物ヲ以テ返還スル契約ノモノアリ此ノ如キ契約ニ於テ其收穫物全部ヲ押領セラレ、トキハ小作人ハ非常ノ困難ニ陥ルコト

アルヘシ

利子ニ就テモ亦無利子ノモノ或ハ普通利率ヲ取レルモノアリ中ニハ多分ノ利率ヲ證書ニ記載スルアリ其者ノ言ニハ是レノ方便ニシテ無利子若クハ低率ノ契約ヲナストキハ小作人返還ヲ惰ルヲ以テ實際ニ於テハ利子ヲ徵收セサルモ表面上此ノ如キ記入シ置クナリト然レトモ此ノ如キハ後來危険ノ惧レナキニアラス故ニ貸與金品ノ返濟ニ付テハ豫メ確タル契約ヲナサシムルノ必要ヲ認ム

第十三條 前條ノ小作契約ハ土地ヲ管轄スル行政廳ノ登録ヲ受クヘシ

合意上契約條項ニ變更ヲ生シタルトキ亦大同シ己ニ第十二條ニ於テ書面契約トナスノ必要ヲ説ケリ果シテ必要ナリトセハ其契約ヲシテ安全ニ後日ノ證據タラシメサルヘカラス

證據ヲ確實ニ保全スルハ登録法ニ據ラサルヘカラス如何ナル小作契約ト雖總テノ小作契約ヲ此方法ニ依ラシムルハ完全ナリト雖若シ法律ヲ以テ儼行スルトキハ大ニ弊害ト違犯者ヲ生スルノ憂アリ然レトモ第十一條ノモノハ殊ニ重大ノ關係アルヲ以テ必ス登録ヲ要スルコト、セリ

米國「ベンシルバニヤ」州ニテハ大抵成文契約ニシテ是レナキハ年小作ナリ而シテ其成文契約ハ登記所ニ登録シ其手數料モ僅少ナリ然レトモ全州ノ小作地積ニ二十五日ヨリ二百「エークル」位迄ナリ即チ我十町ヨリ八十町ノ間ニアリ此地積ハ其農業ノ組織程度本邦ト異ナルヲ以テ割合ニ至リテハ却テ小

ナルアラシカ

同國「マリーランド」州ハ土地ニ關スル契約ハ登記スルコトヲ得ル規定ニシテ七ヶ年以上ノ土地貸借ニ就テハ必ラス登記スヘシトセリ

普國ノ方法ハ小作契約ハ必ス書面ヲ以テ締結シ小作料六百麻以上ニ至レハ先ツ裁判官若クハ公證人ニ契約書ヲ示シテ認定セシメ又證券印紙ヲ貼付スルコト、セリ又同國法典第四百三條ニハ一ヶ年ノ借地料若シ二百「ターレル」以上ナルトキハ其契約ハ裁判所若クハ一名ノ「ノタリオ」契約調査ニ據テ締結セサルヘカラストセリ

葡國ニテハ一年以上ノ期間ニシテ小作料前拂ノトキ又ハ四年以上ノ契約ニシテ小作料後拂ノモノハ總テ登録スルコト、セリ

第十四條 小作契約ニ於テ地主カ小作人ニ土地ヲ分與スル條件ヲ定メタルトキハ其分與スヘキ時期位置及面積等ヲ書面ニ明記スヘシ

本道大農地ニ於テハ小作人ヲシテ永住ノ念ヲ喚起セシメンカ爲メ又ハ一ハ細民保護ノ點ヨリ小作人ニ貸付地ノ成墾付與ヲ得タル後ハ土地ヲ分與スヘキ契約ヲ結ヘルモノ多ク見ル所ナリ然レトモ只漠然何坪分與ストノミノ契約ニテハ後來名義書換ノ場合ニ於テ紛議ヲ生スヘク又各小作人ノ小作地ニ於テ點々分與スルハ土地整理上大ニ不可ナリ故ニ豫メ其位置ヲ定メ契約シ置クノ要アリ又惡意ヲ抱ケル地主ニヨリテハ唯口頭ノミニテ契約ナシ愚鈍ナル小作人ハ之ヲ信用シテ精意耕作ヲ

力メ後狀カレタルヲ知り大ニ其無情ヲ訴フルモノアルハ稀ニ見ル所ナリ是等惡手段ヲ拒カンカ爲メモ亦明確ニ分與スヘキ地積時期位置等ヲ書面ニ記載セシムルノ必要アリ

第二章 小作期限

第十五條 書面契約ニ依ル小作權ノ存續期間ハ五十年ヲ超過スヘカラス

小作期限ニ付キテハ學者間種々ノ説アリテ一定セス歐米ニテハ一般先ツ十七八年位ヲ以テ適當ノ小作期限トナセリ普國ニテハ十八九年ト云ヘリ短期契約ハ最モ弊害アルモノニシテ小作人ハ毫モ土地ノ改良ヲ意トセス地力ニ餘ル耕作ヲナシ可及的多量ノ收穫ヲ得ント欲シ所謂掠奪的農業ヲ營ムニ至リ土地ハ漸々瘠薄ト化シテ地價ヲ減スヘク亦小作人ニアリテモ一朝不作ニ遭遇スルモ是ヲ恢復スルノ期ナカルヘシ反之長期限ハ實ニ利益少ナカラス地主小作人ノ利益ハ共ニ符合シテ毫未モ相背馳スル所アルヲ見ス地主ハ固ヨリ小作期限ノ過長ニ失シ或ス小作人終身ノ貸與法ヲ採用スルコトヲ欲セサルヘシト雖又他ノ一方ニ於テハ適當ナル農業法ヲ其小作地ニ實施スルヲ得ルタメニハ其期限ヲ長ク爲シ置クコトヲ希望スヘシ小作地取戻シ及引渡シノ際ニ於テ毎回必ス多少ノ費金及損失ヲ生スルモノナレハ其度數ヲ減少スルハ双方ノ利益ナルヘシ只其缺點トモ見ルヘキハ長年月ノ間ニハ地價收穫等ニ異同ヲ生シ從テ其影響ハ小作料ニ及ホシ不權衡ヲ生スルニ至ルト過長ノ結果占有權ト所有權ノ區別ヲ忘却スルニ至ル故ニ帝國民法ニハ二十年以上五十年迄トセリ本道ノ如キハ土地ノ價值ノ變化内

地ニ比シテ殊ニ著シク長期ノ契約ハ甚ダ不得策タルカ如シト雖モ今若シ小作料更生期ヲ定メテ豫メ契約スルハ恰モ長期短期ノ長所ノミヲ取りテ折衷セルモノニ等シク本道ニ實施シテ最モ完全ノ良法トス而シテ實際本道小作契約ニ於テモ往々見ル所ナリ故ニ本條例ニ於テ期限ヲ短縮セス民法ノ規定五十年ヲ最長期ト定ムルモ更定期ヲ定ムルトキハ敢テ弊害アルヲ認メサルナリ是レ民法ノ規定ヲ襲用セシ所以ナリ

第十六條 口頭契約ニ依ル小作權ノ存續期間ハ三年ヲ超過スヘカラス

小作契約ヲナスニ當リ往々期限ヲ定メスシテ漠然小作人タルモノアリ此ノ如キハ多ク年小作ナリ然レトモ彼等ハ順次繼續シ行クヲ以テ隨意小作トナルナリ抑モ隨意小作ナルモノハ地主ハ何時ニテモ解約シ得ルヲ以テ小作人ハ土地ノ改良ヲ行フコト甚ダ危險ナルカ故ニ地力ハ次第ニ瘠薄トナレリ又此小作契約ヲ永續シ行クトキハ一朝紛議ヲ生セル場合ニ證據スヘキモノナリ其處分ニ困難ヲ來スヘシ是レ本條ニ於テ三年ヲ超過スヘカラスト規定セル所以ナリ

英國詐僞條例ハ米國各州ノ採用スル所トナレリ尤モ幾分カ修正ヲ加ヘタル所アレトモ當事者間ニ證書ナキ時ハ三年以上ノ契約ハ隨意小作ノ効力ヲ有スルモノト定メタリ又米國。アラバマ。マリーランド。ミシガン。ニュージャージー。ニューヨルク。ヲハイオ。ペンシルベニア。カロリナ。ウイスコンシン。等ノ各州ニ於テハ一年以上ノ小作契約ハ證書ナケレバ無効トセリ。メーン。ニューハンブッシュ。グワイモン

マツサチユ一セツツ。インデヤナ。各州ニ於テハ證書ナケレハ隨意小作トセリ

本條ニ於テ三年ト定メシハ他ナシ二三年間位ハ信用ニテ貸借スルモ左程ニ弊害ヲ生スルコトナカルヘキモ是ヨリ以上ノ長年月ノモノハ弊害ヲ生スル掛念アルヲ以テ此ノ制度ヲ設ケタルナリ

第十七條 前二條ニ於ケル小作權ノ設定ハ之ヲ更新スルコトヲ得

但書面契約ニ依ル期間ハ更新ノ時ヨリ五十年口頭契約約ニ依ル期間ハ更新ノ時ヨリ三年ヲ超過スルヲ得ス前二條ノ規定ニヨレハ書面契約ハ五十年口頭契約ノモノハ三年ヨリ長ク存続スルコトヲ得サルカ如シト雖當事者間往々ニシテ其規定ヨリ長ク存続センコトヲ希望スルコトナシトセス此場合ニ於テ法律ハ絕對的ニ之ヲ禁スルノ必要ナク此ク規定セルハ畢竟小作料等ニ不公平ヲ生スルノ惧レアルカ爲メニシテ契約ヲ更新スルニ於テハ第三者ナルト其者ナルト取テ差支ヘナキ所ナリ故ニ本條ニ於テ更新スルコトヲ得トセリ尤モ此更新ノ期限ハ前二條ノ制限ヲ受クルモノナレハ前者ハ五十年後者ハ三年ヲ超過シ能ハサルナリ

第十八條 小作人其小作地ヲ轉貸スルトキハ其契約期間ハ自己ノ小作權ノ存続期間ヲ超過スヘカラス

本條ハ轉貸期間ニ付テ規定セルモノナリ之レハ説明ヲ要スル迄モナク自己ノ契約期限ヲ超ヘテ又小作セシムルコト能ハサルヘシ例令地主ト小作人トカ其契約期限ヲ超ユル轉貸ヲ合意

セリトスルモ既ニ第十四條ニ於テ又小作ヨリ生セル損害ハ地主ノ承諾如何ニ關セス第一小作人ノ負擔タルコトヲ規定シ第一小作人ニ義務ノ存スル以上ハ其契約期限ヲ超ユヘカラス若シ超過期限ノ契約ヲナセルトキハ其超過セル年限ニ付テハ第二小作人ト地主ト新契約ヲ成立セシムヘケレバナリ

第十九條 質權者質地ヲ小作セシムルトキハ其契約ノ期間ハ質權存続期間ヲ超過スヘカラス

但質權設定者ノ承諾アルモノハ此限りニアラス
質權者カ其質地ヲ小作セシムルニ當リテ其權利ヲ行使シ得ル年限内ハ自己ノ意思ヲ以テ小作セシムヘキモ其質權設定期限ヲ超ヘテハ其權利ナキヲ以テ質年限以上ノ小作契約ヲナシ能ハサルヤ明カナリ然レトモ若シ質權設定者カ質年限ヲ過クルモ猶小作セシムヘキ承諾ヲ質權者ニ與フルトキハ質權者カ其質年限ヲ超ユル契約ヲナスモ質流若クハ質受ケノ何レニ歸スルモ兩者ノ承諾セルモノナレハ取テ故障ナカルヘシ是レ但書ニ於テ規定セル所以ナリ

第二十條 小作人小作契約滿了後其契約ヲ繼續セントスルトキハ其期間ノ終リヨリ六ヶ月前ニ繼續期間ヲ定メ地主ニ通知スヘシ

小作人ニ於テ滞リナク小作料ヲ支拂ヒ來リ其他地主ニ損害ヲ蒙ラシムルコトナケレハ其契約ヲ繼續セシムルコト兩者ニ取リテ誠ニ利益アル所ナリ故ニ地主ニ於テモ不得止事故ノ存セサル限りハ是ヲ許可スヘシ然レトモ滿期ノ年度末ニ近ツキ突然其繼續ヲ申出ツルトキハ地主ハ已ニ新小作人ヲ契約セシ後

ナルコトアルヘク又ハ從來ノ小作人ト雖トモ地主若シ承諾セサルトキハ俄ニ新作地ヲ撰擇セサルヘカラス此ノ如キハ耕作時期ヲ失シ不慮ノ損害ヲ生スルノ虞レアルカ故ニ是等ノ場合ニ際シテハ豫メ充分ノ時日ヲ與ヘ其繼續年限ヲ定メテ地主ニ通知スヘキコト、ナシ本條ニ於テハ之レヲ六ヶ月已前ト規定セリ繼續年限ヲ定メテ通知スルノ必要ハ次條ノ説明ニ因リ知ルコトヲ得ヘシ

第二十一條 地主前條ノ通知ヲ受領セシ日ヨリ一ヶ月

以內ニ何等ノ通知ヲ爲サ、ルトキハ繼續ヲ承諾セシモノト看做ス

小作人カ六ヶ月前ニ小作契約ノ繼續通知ヲナセルニ地主カ花再何等ノ返答ヲモ與ヘサルトキハ小作人ハ何レトモ決定スルコト能ハスシテ耕作準備若クハ新小作地ヲ撰定スルニ躊躇シ爲メニ損害ヲ生スルコトナシトセス故ニ通知ヲ受領セシ日ヨリ三十日ヲ經テ尙ホ地主カ返答ヲナササルトキハ地主ノ責ニ任シ本條例ニヨリテ承諾セシモノト認ムルナリ從テ小作人モ次期ノ耕作準備ヲナスコトヲ得ヘシ又斯ク規定シ置クトキハ地主モ是ヲ許容スルトキハ別ニ返答ヲナスノ手數ナキヲ以テ前條ニ於テ其繼續年限ヲモ通知スルコト、セリ本條ニ於テハ通知ニ付受信主義ヲ取レリ現今通知ニ付テハ発信主義ヲ以テ最モ發達セル說トスレトモ農業ノ如キハ商業ト異ナリ其動作緩急凡テ異ナル所アルヲ以テ本條ハ受信主義ヲ取レリ

第三章 小作料

第二十二條 小作契約期間中小作料ノ更正期ヲ定メテ

二つの北海道小作法案並に理由書

ルトキハ書面ニ明記スヘシ

本道ニ於テ長期小作契約ノ或ル點ニ於テ不利益ナレハ已ニ第十五條ノ説明ニ於テ述ヘタリ然レトモ其ハ一定小作料ノ約束アル場合ニシテ假シ長期契約ナリトモ小作料更正期ノ契約ヲナスアルトキハ經濟上不利益ノ點ナク却テ完全ノ方法ナリトス本道ノ如キ小作人ノ移動定メナク地主ノ困難少ナカラサル所ハ小作人ヲシテ永住ノ感念ヲ生セシメサルヘカラス此方法ハ長期契約ニ依ルヲ宜トス而シテ長期小作ノ缺點ヲ除クニハ小作料ノ更正期ヲ約定スルニアリ殊ニ小作料ノ如キハ最モ主要ノモノナレハ若シ此契約アルモノハ必ス書面ニ明記セシメタリ反之書面ニ記載セサリシトキハ此條文ニヨリ小作料ノ更正ヲ許サ、ルハ明カナリ

第二十三條 小作契約ニ於テ小作料ノ納期ヲ規定セザ

ルトキハ毎年度十一月三十日ヲ以テ納期トス

小作料納期ニ付テハ勿論地主小作人ノ便宜ニ任スヘク法律ヲ以テ干涉スヘキ必要ヲ認メス或ハ一期二期三期四期等ニ別テ納付スルノ契約アリ或ハ作物ノ收穫期ニヨリ區別スルモノアリテ一定セサルナリ然レトモ多クハ或ル作物ノ收穫ヲ終ル時期ヲ以テ之ヲ定ムルカ如シ若シ收穫時期ヲ去ルコト遠ケレハ小作人ハ收穫物ヲ賣却シテ金錢ニ換ヘ遂ニ消費シテ小作料納付ヲ延滞スルモノアリ殊ニ本道ノ小作人ニ多ク此ノ弊害ヲ見ル故ニ若シ小作契約ニ於テ納期ヲ定メサリシ場合ニハ法律ヲ以テ適當ナル時期ヲ規定シ置クノ必要アリ之レ一朝紛議ノ出來シ場合ヲ救フコトヲ得ヘシ普國法典第十六款ニ官有地ノ

小作料ヲ納付スルハ小作年度ヲ四期ニ分チ九月一日、十二月一日、三月一日、六月一日ヲ以テ前拂ヒニ納ムヘキコトヲ規定セリ此四期ハ各收穫ニシテ四度ニ納メシムルコト大ニ便宜ナレトモ前拂ノ規定ハ賛同スル能ハス本道ノ小作契約ハ最モ十一月末(二十日或ハ三十日)ニ納ムルモノ多クシテ又十二月ノ契約アルモノ往々アリ又蕎麥、蕎麥、麥等ノ收穫期ニ半額ヲ納メシメ殘額ハ十一月若クハ十二月ニ納ムル約アルモノモ亦多ク視ル所ナリ然シ今十二月ト契約スルトキハ翌年度ニ至ルノ惧レアルヲ以テ收穫期ノ終リヲ以テ之ヲ定ムルコト最モ便宜ナルヘシ本道ニテハ大抵ノ作物ハ十一月中ニ取納ムルヲ以テ本條例ニ於テハ當事者ニ於テ特定セサルトキハ十一月三十日ト規定セリ

第二十四條

小作契約ニ於テ小作料ノ納所ヲ規定セザルトキハ小作地所在ノ戸長役場管轄内ニ在ル地主若クハ代理人ノ住所ヲ以テ納所トス

小作料ノ納所ノ遠距離ニアルハ小作人ニ取リテ最モ不利益ナル所ナリ故ニ納所ニ付キ特別ノ契約ナキトキハ其小作地所在ノ戸長役場管轄内ニアル地主ノ住所若シ又地主カ遠隔ノ地ニアルトキハ第十條代理人ヲ定メ置クノ規定ニヨリ代理人ノ住所ヲ以テ納所ト定メタルナリ

第二十五條

小作料ノ納所カ小作地ヨリ二里以外ニ在ルトキハ小作人ハ地主ニ對シ其納付ニ關スル費用ヲ要求スルコトヲ得

地主ノ住所遠隔ナルトキハ小作人ノ不利益ナルコトハ既ニ前

條ニ設ケリ故ニ若シ地主ノ住所ニ里以外ニアルトキハ小作人ハ地主ニ對シ運搬費ヲ請求セシムルコトヲ得セシメタリ此二里ナル數ハ外國法律ニ例アルニアラス又本邦ニ於テ習慣ノ存スルニアラサレハ敢テ根據スル所アリテ割出セル數ニアラス只一里内外ニシテ運搬費ヲ要求スルハ正當ニアラス又三里以上ニナリテハ往復ニ殆ント一日ヲ費スニ至ルヲ以テ其中數二里ヲ取リタルニ過キス

第四章 小作料意納處分

第二十六條

小作契約ヲ定メタル納期若クハ法定納期ヲ經過スルモ小作人小作料ヲ納付セザルトキハ地主ハ裁判所ニ小作人ノ財産假差押ノ申請ヲナスコトヲ得

本條ハ小作料ヲ納付セザル小作人ニ對スル地主ノ權利ヲ規定セルモノナリ債權者カ強制執行ヲ保全スル爲メ假差押ノ申請ヲ爲スコトヲ得ルハ民事訴訟法ノ規定スル所ナリト雖其假差押ヲ爲シ得ヘキ場合ハ假差押ヲ爲サ、レハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハサルカ又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキニ限り且請求及假差押ノ理由説明ヲナシ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テサルヘカラス抑モ法律ニ於テ假差押ヲ許容スルハ一ニ債權者ノ執行保全ノ目的ニシテ未タ確定セザル債權ト雖早晚確定スヘキ債權ヲシテ損失ナカラシメンコトヲ期シタルモノナリ地主カ小作人ニ對スル小作料ノ如キハ實ニ明確ナル債權ニシテ裁判上ノ確定判決ヲ待タスシテ殆ント争フヘカラサルモノナルヲ以テ充分其執

行ヲ保全スルノ必要アリ殊ニ本道ニ於ケル小作人ノ如キハ地主ニ對スル情誼輕薄ニシテ往々逃亡ヲ爲シ又ハ財産ヲ隱匿シ一度逃亡セルトキハ地主ハ其所在ヲ知ル能ハス爲メニ其債權ヲ害セラル、恐アルモノナレハ地主ニ對シ豫メ小作人ノ財産假差押ヲ爲スコトヲ得ルノ特典ヲ與ヘ其債權ヲ保護スルノ必要アリ故ニ本條ニ於テハ假差押ニ付テハ特ニ假差押ヲ爲サ、レハ其他日ノ執行ヲ爲ス能ハス爲メニ債權ヲ害セラル、ノ理由ヲ疏明スルヲ要セス單ニ小作料ノ納期ノ經過シ尙ホ其納付ヲ爲サ、ルトキハ直チニ假差押ノ申請ヲ爲スコトヲ得セシメタルナリ是畢竟假差押ノ手續ヲ簡易ナラシメ實際上ノ便宜ニ供シタルニ過キス然レトモ地主ノ隨意ニ假差押ヲ爲サシムルトキハ時ニ或ハ酷薄ニ流レ小作人ノ權利ヲ侵害スルノ恐レナシトセス故ニ裁判所ノ決定ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得ルコト、ナセリ申請ヲ爲スヘキ裁判所ハ民事訴訟法ノ規定ニ讓リ債務者即チ小作人ノ普通裁判籍ヲ有スル區裁判所又ハ差押ヲヘキ物件ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所等其法律ニ依リ管轄權アル裁判所ニ申請セシムルノ精神ナリ

第二十七條 假差押ハ小作地ノ作物ニシテ生長中ノモノト雖之ヲ爲スコトヲ得

但轉借人ノ作物並ニ抵當權ヲ設定セル作物ハ此限りニアラス

本條ハ前條ニ依リ地主カ假差押ヲ爲スニ當リ小作人カ小作地ニ耕種セル作物アルトキハ尙ホ之ヲ差押フコトヲ許シタルナリ民事訴訟法第五百六十八條ニハ土地ヨリ離レサル果實ハ成

二つの北海道小作法草案按竝に理由書

熟時期一ヶ月前ナルトキハ之ヲ差押フコトヲ得ト規定セリト雖本條ニ於テハ其成熟期ノ如何ニ問ハス苟モ其耕作物ニシテ一定ノ價值アル場合ハ之カ假差押ヲ許シタルモノナリ何トナレハ地主ハ一般ノ債權者ト異ナリ其小作地ニ對シテハ最モ注意スヘキ位置ニアルモノニシテ假令成熟ニ達セサル作物ト雖漫リニ其培養ヲ怠リ又ハ土地ヲ害スルノ恐レアルモノニアラサレハ只作物カ成熟時期ノ一ヶ月前ナラサルカ爲メニ現ニ相當ノ價值アルモノヲ差押フルコトヲ得サルニ於テハ其利益ヲ損スルコト大ナルヲ以テナリ而シテ其收穫時期ニ達スル迄ノ保存行爲ハ次條ニ規定セリ

以上ノ如ク生長中ノ作物ニ對シ假差押ヲ爲スコトヲ許シタリト雖若シ小作地ノ作物カ轉貸ニ因リ又小作人ノ耕作セルモノナルトキ尙ホ之ヲ差押フルトキハ善意ナル第三者ヲ害スルモノニシテ殊ニ本條例第五條ニ小作地ノ轉貸ハ豫メ地主ノ承諾ヲ要スルモノナレハ又小作人ノ作物ヲ小作人ノ犧牲トスルノ理ナリ又作物ニ對シ抵當權ヲ設定セル場合モ第五十七條ニ依リ地主ハ其設定ノ當時承諾ヲ要スヘキモノナレハ自己カ承諾ヲ爲シテ設定セル抵當權アル作物ヲ自己ノ債權ノ爲メ差押ヘシムル道理ナケレハナリ是レ但書ヲ設ケタル所以ナリ

第二十八條 假差押中作物ノ肥培收納其他保存ノ爲メ必要ナル行爲ハ民事訴訟法第五百七十一條ノ規定ヲ準用ス

本條ハ前條ニ依リ假差押ヲ爲シタル作物ノ保存行爲即肥培收納其他必要ナル行爲ヲ規定セルモノニシテ民事訴訟法第五百

七十一條ノ差押物保存ノ爲メ特別處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲シ若シ之カ爲メニ費用ヲ要スルトキハ債權者ヨリ豫納セシムルノ規定ヲ準用セリ

(參照民事訴訟法第五百七十一條) 差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス可シ若シ此カ爲メニ費用ヲ要スヘキ債權者ヲシテ之ヲ豫納セシメ又債權者數名關係スルトキハ其要求額ノ割合ニ從テ其各債權者ヨリ之ヲ豫納セシムヘシ

第二十九條 前數條ニ掲クル假差押ニ付テハ民事訴訟

法第六編第四章ノ規定ニ依ル

本條ハ小作料ノ怠納處分トシテ假差押ヲ爲スニ付其手續ヲ規定セルモノニシテ總テ民事訴訟法第六編第四章ノ規定ニ依ルコト、ナセリ

本章ノ怠納處分ハ只民事訴訟法ノ規定ヨリ特別ニ出テタルモノ、ミテ掲ケタルモノニシテ其他ハ悉ク同法ニ依據スルコト、ナシタリ殊ニ差押フヘカラサル物件ニ關スル規定及其順序等ノ如キハ各國小作法典ノ必ス規定スル所ナリト雖我國ノ如キハ民事訴訟法第五百七十條ニ詳細ノ規定アリ其他假差押及確定判決ニ因ル差押ノ如キニ至リテハ同法ニ依ルコト、ナシ本章ハ單ニ特別ニ闕セルコトノミニ付テ規定セリ

第五章 小作料免除及減額

第三十條 小作地天災ニ因リ收穫皆無トナリ又ハ其地

若クハ比隣地前六ヶ年平均收穫ノ二分ノ一以上ニ該當スル額ヲ減シタルトキハ小作人ハ其損失ニ割合ヒ

小作料ノ免除又ハ減額ヲ地主ニ請求スルコトヲ得
小作人土地ヲ借受ケ是カ使用權ヲ實行スルニ於テ自由ヲ得毫末モ地主ノ關涉ヲ受ケサル以上ハ營業主任ノ地位ニアルモノナレハ一切ノ危險及其危險ヨリ生セル損害ハ一人ニテ負擔スヘキモノナリト雖永小作ノ如キ長期間ノ借受ニ於テハ其損害ヲ恢復スルコトヲ得ヘキモ短期間ノ借受ニテハ到底其期ナカ
ルヘシ元來小作農業ナルモノハ地主自ラ耕作シ能ハサルノ事情存シ只資本ヲ供シ小作人ハ勞働ヲ提供セル共同農業ノ如キモノナリ故ニ其損害ハ共ニ分擔スルノ性質ヲ含有ス殊ニ小作人ノ如キハ多クハ貧窮ナルモノニシテ一年ノ收入ヲ以テ一年ノ生活ヲ維持シ餘裕アルモノ甚タ稀ナリ爰ヲ以テ收穫皆無若クハ半作以上ノ不作ニテモ免除セラレサルトキハ生活ヲ維持シ能ハサルノ狀態ニ陥ルニ至ル然レトモ永小作ニアリテハ一定ノ小作料ニシテ長期ノ契約ナレハ假令凶年アルモ是ヲ恢復シ得ヘシト雖短期契約ニアリテハ永小作ト其性質ヲ異ニスルヲ以テ本條ニ於テ永小作ニ對シテハ民法ノ規定ニ從ヒ其他ノモノニハ減免セシムルコト、セリ此ク言ハ、僅少ノ不作ニモ尙ホ減額セサルヘカラサルカ如シト雖年々檢見スルハ非常ノ煩雜ナルヲ以テ殊ニ著シキ半作以上トシ儘カノ減作ハ其豐作ノ場合ヲ以テ恢復セシムルコトヲ得ヘシ普通本邦ニ行ハル、小作料ノ減額ハ半作以上ノ場合ニ多キヲ以テ二分ノ一以上トセリ又六ヶ年間ノ平均ヲ取リシハ凡ソ農作物ノ平均產額等ヲ算出スルハ七ヶ年ヲ取リ其中最多最少ノ二年ヲ除キ残り五ヶ年ヲ平均スルヲ例トス然レトモ此ク精細ニ規定スルノ煩雜ナ

ルト又七ヶ年ハ必スシモ缺點ナキモノト見ルヘカラス若シ能
フヘクンハ可成的多數年間ノ平均ヲ取ルヲ完全トス故ニ本條
ニ於テハ六ヶ年トセシナリ

第三十一條 小作地ノ全部荒地トナリタルトキハ地主

ハ其年度ノ小作料ヲ免除スヘシ

小作地ノ幾部分荒地トナリタルトキハ地主ハ其部分

ノ面積ニ應シ其年度ヨリ小作料ヲ減額スヘシ

但牧場又ハ休作地ハ被害ノ日ヨリ免除又ハ減額スヘ

シ

小作地ノ全部カ山崩、川缺、押堀、石砂入、川成、海成、湖
水成等ノ爲メニ荒地トナリシトキモ前條ト同シク收穫皆無ト
ナルモノナレハ其年ノ小作料ハ免除セシムルコトトセリ小作
地ノ一部分荒地トナリシ場合モ亦其地積ニ割合ヒ減額セシム
而シテ其部分ニ付キテハ其年度ヨリ以後小作料ヲ減額セシム
ルハ至當ナリ而シテ牧草地ニアリテハ被害ノ日迄ハ放牧ニ用
ヒ又ハ牧草ノ刈取ヲナセシカ免ニ角其日迄使用シ來リタルモ
ノナレハ全額免除減額セサルモ可ナリ休作地ニ於テモ亦同シ
極端ニ論スルトキハ少シモ減免セシシテ可ナルカ如キモ被害
後ノ目的ニ付キテハ圖リ知ルヘカラサルヲ以テ牧場ト同シク
被害ノ日ヨリ以後ノ割ニテ減免スルコトトセリ

第三十二條 前條ニ依リ小作料ノ免除若クハ減額ヲ爲

スニハ其災害カ小作地ノ作物收納前ニ起リタル場合

ナラサルヘカラス

本條ハ説明ヲ要スル迄モナク若シ其田畑ヨリ收穫ヲ終リシ後

ナラハ其目的ヲ得シモノナレハ假令荒地トナリシニセヨ其年
度ヨリ小作料ヲ減免スルノ理ナシ若シ二作ヲナス土地ニシテ
既ニ前作ヲ採リ後作ヲ收メサル間ニ起リシトキハ之モ全部減
免スヘキニアラス其損害ニ割合ヒ減免ヲ爲スヲ至當トセリ

第三十三條 避ク可カラサル原因ニ依リ小作人小作地

ノ全部若クハ幾部分ノ作物ヲ失ヒ其損失ノ賠償ヲ得

サルトキハ地主ハ其年度ノ小作料ヲ免除シ若クハ其

部分ニ應シ減額ヲ爲スヘシ

避クヘカラサル原因即チ社會公共事業若クハ兵事上ノ出來事
等ニヨリ或ハ兵營地トナリ若クハ戰爭ノ爲メニ人馬ノ蹂躪ス
ル所トナリタルトキハ天災ト同シク小作料ヲ減免スヘシ最モ
兵事上ノ出來事ニテモ或場合ニハ賠償ヲ得ルコトアルヘシ此
ノ如キ時ハ小作人ハ尙ホ其上ニ小作料ノ減免ヲ請求スルハ不
當ナリ故ニ本條ニ於テ賠償ヲ得サリシトキノミ之ヲ請求スル
コトヲ得トセリ

第三十四條 避クヘカラサル原因ニ依リ小作地ノ全部

又ハ幾部分六ヶ月以上耕牧ヲ妨ケラル、カ若クハ地

形變更セサルトキハ地主ハ其年度ノ小作料ヲ免除シ

若クハ其部分ニ應シ減額スヘシ

本條モ亦天災地變兵事等ノ爲メニ六ヶ月以上即チ本道ニテ殆
ント其年ノ耕作收穫ヲ爲シ能ハサリシ場合換言スレハ收入皆
無トモ言フヘキ場合ハ小作人ハ其生活ヲモ維持スルコト疑ハ
シキ程ナレハ無論此場合ニモ免除若クハ減額シ與フルヲ至當
トセリ

第三十五條 第三十九條ノ場合ニ於テハ其地積ノ部分

ニ應シ小作料ヲ減額スヘシ

第三十九條ノ場合ニ於テ地主カ自家利益ノ爲メニ礦物土石ヲ採掘シ又ハ之ニ必要ナル工事ヲナス爲メニ土地ヲ取戻シタルトキハ勿論小作地全體ノ使用ノ爲メ又ハ衛生其他小作地ノ保存等ノ爲メニ樹木ヲ植付ケ堤塘ヲ設置シタル場合ハ假令其小作人モ利益ヲ蒙ルヘキモノトスルモ小作地全體ノ利益タルカ又ハ地主ノ永遠ノ利益ヲ保全スル爲メナレハ其地積ニ準シテ小作料ヲ減額スヘキモノトセリ

第三十六條 本章ノ規定ハ永小作ニ適用セス

長期契約ナル永小作人ハ不作等ノ場合アルモ之ヲ恢復スルノ期多ク又殆ント所有者ノ如キ地位ニアルモノナレハ民法ニ於テモ既ニ小作料ノ免除減額ヲ認メヌ故ニ永小作ハ本章ノ規定ニ依ラサルコト、セルナリ

第六章 小作解約

第三十七條 小作契約期間中地主若クハ小作人已ムヲ

得サル事故ニ因リ小作廢止ヲ欲スルトキハ年度末ヨリ十二ヶ月前ニ他ノ一方ニ對シ解約ヲ通知スヘシ

小作契約期限中地主小作人其猥リニ契約ヲ破ルコトヲ得サルハ明カナル事實ナリ然レトモ若シ止ムヲ得サル理由即チ疾病家族減少、轉業等ニ起因シ或ハ到底利益ヲ得ルコト能ハサルカ其他種々ノ事情ノ爲メニ解約ノ止ムヲ得サル場合アラン之レヲシモ羈束シテ解約スルコト能ハサラシムルハ極端ニ人ノ自由ヲ妨害シ却テ立法ノ本旨ニ反スヘシ故ニ止ムヲ得サル理

由アルトキハ之ヲ許可スルコト、セリ然レトモ契約中突然解約ヲ申出ツルトキハ地主小作人共其解約後ノ準備其他耕作牧畜上ニ大ナル損害ヲ生スルヲ以テ是等ノ障礙ヲ排除スルニ充分ノ時日ヲ與ヘサルヘカラス故ニ本條ニ於テ十二ヶ月前ニ通知スルコト、セリ然シ此ク條例ニ於テ規定スルトキハ勝手ニ理由ヲ捏造シ解約ヲ申出ツルモノアルトキハ却テ弊害ヲ生スルノミナラス地主小作人共假令十二ヶ月前ニ通知セラル、トモ如何ナル損害ヲ生スルコトナシトセス爰ヲ以テ第六十九條ニ於テ解約ヲ要スルモノヨリ他ノ一方ニ賠償請求ノ權アルコトヲ規定セリ

第三十八條 小作契約期間中地主若クハ小作人ヨリ他

ノ一方ニ對シ解約ヲ要求スルコトヲ得ル場合ハ左ノ如シ

但本條ノ場合ニ於テハ他ノ一方ハ其要求ヲ拒ムコトヲ得ス

- 一、小作人小作料ヲ怠納セルトキ
- 二、小作人家資分産又ハ破産ノ決定ヲ受ケタルトキ
- 三、小作人禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 四、地主若クハ小作人小作契約ノ條件ニ違背セルトキ
- 五、小作地ノ全部若クハ幾部天災事變其他ノ不可抗力ニ因リ又ハ小作人ノ怠慢ニ因リ荒地トナリタルトキ

六、小作地ノ全部若クハ幾部ヲ法律命令ニ依リ收用若クハ他ニ使用ヲ許可セラレタルトキ

七、小作契約期間中小作人死亡シ其ノ遺族ニ於テ契約ヲ繼續シ能ハサルトキ

八、小作地カ北海道國有未開地處分法ニ依リ貸付中ノ土地ニシテ其全部若クハ幾部分ヲ當該官廳ヨリ返還ヲ命セラレタルトキ

九、天災地變其他不可抗力ノ原因ニ依リ六ヶ月以上小作地ノ全部若クハ幾部分ヲ使用シ能ハサリシトキ

十、第二十二條ノ場合ニ於テ更正ノ小作料ニ合意セサルトキ

十一、小作人故ナク六ヶ月以上執業セサルトキ
本條ハ契約ノ安全ヲ保ツ爲メ其他止ムヲ得サル事情ノ爲メ當然解約ヲナシ得ヘキ場合ヲ規定セルモノニシテ前條トハ其性質ヲ異ニス故ニ解約ヲ申込マレタルモノハ如何ナル事情ノ存スルトモ之ヲ拒絶スルコト能ハサルナリ

一、小作料ヲ納ムルハ小作人第一ノ義務ニシテ之ヲ怠納セルトキハ自己ノ義務ヲ盡サ、ルモノナリ地主カ土地ヲ賃貸スルハ單ニ地代ヲ得ルノ目的ニ過キスト云フモ可ナリ故ニ小作人ニ於テ地代ヲ怠納セルトキハ契約ヲ履行セサルモノナルヲ以テ解約セラレ、コト至當ノ理ナリ

二、小作人家産分産又ハ破産ノ處分ヲ受ケタルトキハ土地耕

一、小作料徵收等ニ危險ノ惧レ少ナカラサルヲ以テ契約安全ヲ得ント欲セハ解約ヲナサ、ルヘカラサルヲ以テナリ

三、小作人禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ即チ小作人刑ノ處分ニ依リ又ハ心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ對シ裁判所カ財産ノ處理ヲ爲ス

私權ヲ禁止シタルトキニ當リ尙ホ小作契約ヲ成立セシムルトキハ地主ハ時ニ非常ノ損害ヲ蒙ルコトナシトセス此ノ如キ場合ニ於テハ地主ニ契約解除ノ權ヲ與フルハ蓋シ地主ノ權利ヲ保護スルノ趣意ニ出テタルナリ

四、地主又ハ小作人ノ一方ニ於テ契約條件ヲ破リシトキハ何レヨリモ解約ヲ申出ツルコトヲ得ルナリ土地ノ賃借ハ契約上互ニ満足セル上ニテ小作地ノ授受ヲナセルナリ然ルニ小作人隨意ニ土地ノ變更ヲナシ制限セル肥料ヲ用ヒ其他小作地ノ衰耗ヲ來タス等ノ行爲アルトキハ是レ契約ヲ破リシナルハ解約ヲ申出ツルコト至當ノ理ナリ

五、小作地ノ全部カ第三十二條ニテ説明セルカ如ク天災等ノ爲メ荒地トナリシトキハ小作契約ノ目的物消滅セルモノナレハ當然解約ヲ申出ツルヲ得ヘシ假シ荒地カ恢復シ得ルトスルモ甚タ困難ナルモノナレハ自己カ契約ヲ繼續セント欲スルトキハ任意ナレトモ解約セント欲スルトキハ之ヲ爲スヲ得ヘシ又一部分カ荒地トナリシ場合モ其地積ヲ減少セシモノナレハ最初ノ經營ト大ニ齟齬シ到底其目的ヲ達スルコト能ハサル場合ヲ生スヘシ此時ニモ亦解約ヲ請求スルコト

ヲ得ヘシ

小作人ハ土地ヲ借受ケシ以上ハ其ノ土地ヲ保護シテ地力ヲ消耗衰頽セシムヘカラス然ルニ小作人怠慢ニシテ幾部分ヲ荒廢不毛ノ土地トナスコトアラハ假令ヒ小作人ハ小作料ヲ納ムルトモ其土地ノ價値ヲ減スルノミナラス且小作人タルノ義務ヲ盡サ、ルモノナルヲ以テ解約ヲ要求スルコトヲ得セシメタリ

六、小作地ノ全部若クハ幾部カ土地收用法又ハ鑛業條例等ニ依リ起業者ニ收用若クハ使用ヲ許可セラレ或ハ兵事上ノ爲メニ使用地等トナリタル場合ニ於テ小作地皆無トナルカ又ハ狭小トナリタル爲メ小作人カ最初ニ企テタル目的ト違ヒ到底其借地繼續ヲナシ能ハサル場合アルヘシ是レ小作人ノ隨意ヨリ出テシニアラス法律命令ニ依リ生シタル結果ナレハ地主若クハ小作人ハ解約ヲ要求スルコトヲ得ルハ至當ナリ

七、小作契約期間中ニ假令ヒ契約當事者ノ一方カ死亡シタリトモ其契約ヲ破ラサルヲ以テ可トスヘシ然レトモ小作人ノ尸主死亡シタル爲メ勞働者ヲ減シタルカ又ハ遺族幼小ニシテ契約繼續ノ見込ナキトキハ之ヲシモ解約セシメサルハ到底行ハレサル所ナリ故ニ本條例ニ於テ小作人死亡シ遺族ニシテ契約繼續シ能ハサル時ハ解約ヲ要求シ得ルコトトセリ八、小作地カ北海道國有未開地處分法ニ依リ全部又ハ幾部分返還ヲ命セラレタルトキハ第六號ノ收用若クハ使用トナリタル場合ト同一理由ナレバ説明ヲ要セス

九、小作地ノ全部若クハ幾部分カ水害軍事其ノ他ノ天災事變等ノ爲メニ六ヶ月以上即チ本道ニ於テハ殆ント全耕收期中其事業ヲ妨ケラレタル場合ニハ小作人ハ其年ノ收益ヲ得ル能ハサルノミナラス其妨害カ永續スルコトアラシニハ小作人ハ他ニ小作地ヲ借受クルカ又ハ轉業セサルヘカラス故ニ此ノ如キ場合ニハ解約ノ要求ヲナスコトヲ得トセリ

十、第二十二條ノ場合ニ於テ小作料ノ更生期ヲ設クル必要ヲ説ケリ然ルニ若シ地主カ不當小作料騰貴ヲナセル場合ニモ尙ホ契約ヲ繼續スヘキモノトセハ小作人ハ狼狽ニ意思ノ自由ヲ束縛セラル、コト、ナリ第二十二條ニ於テ認メタル必要モ却テ弊害タルヲ免レサルヘシ故ニ此ノ場合ニ於テ小作人ト地主ト更正小作料額ニ付意思ノ合致セサルトキハ解約ヲ要求スルコトヲ得セシメタリ

十一、本道地主ノ最モ困難スル所ハ小作人ノ移動是レナリ若シ小作人ニシテ他業ヲ取り或ハ他人ノ小作人トナリ到底其小作人タルノ念ナキカ又ハ其爲メニ小作地ヲ荒廢セシムル等ノ事情現ハレタルトキハ地主ノ安全ヲ保ツ爲メ解約スルコトヲ得セシメタリ小作人ニシテ止ムヲ得サル事情ノタメ小作地ヲ離ル、場合ニハ地主ノ許可ヲ受クレハ可ナリ故ニ六ヶ月以上理由ナクト規定セリ六ヶ月以上ハ少ナカラサルノ時日ニシテ普通ノ用務ニハ此ノ如キ時日ヲ要スルモノ少ナク小作人ニ取リテハ大事件トモ云フヘシ然ルニ小作人カ六ヶ月以上モ無斷ニテ小作地ヲ離ル、トキハ其土地ニ忠實ナラサルモノト推定セサルヲ得ス故ニ地主ノ安全ヲ保チ且

ツ小作人カ猥リニ移動スルヲ拒カンカ爲メ此規定ヲ設ケタ
リ

第三十九條 地主小作人ニ對シ小作地ノ一部分ノ返還

ヲ要求スルコトヲ得ル場合ハ左ノ如シ

但本條ノ場合ハ小作人之ヲ拒ムコトヲ得ス

一、道路用悪水路或ハ瀦水場ヲ設クルトキ

二、小作地ノ保存其他ノ必要ニ依リ工事ヲ爲シ又ハ

樹木ヲ栽植スルトキ

三、小作地ヨリ礦物土石ヲ採掘シ又ハ其事業ヲ爲ス
爲メニ建物ヲ設クルトキ

前條ニ於テハ小作解約ノ場合ヲ規定セルカ本條ニテハ小作地
一部分ノ取戻ヲ爲シ得ル場合ヲ定メタルナリ元來小作地ハ期
限中猥リニ地主ニ於テ取戻スコトナク小作人ヲシテ充分安全
ニ使用セシムヘキモノナレトモ地主カ公共ノ利益ヲ圖リ又ハ
多數小作人ノ爲メニスル場合ハ其一部分ヲ取戻スコトヲ得セ
シメサルトキハ永年ノ契約ヲナセシ場合等ニハ其満期ヲ待タ
サルヘカラサルコト、ナリ大ニ不利益ナリトス故ニ本條例ニ
列記セル條項ニ該當スルモノハ一部返還ノ要求ヲ爲スコトヲ
得セシメタリ英國小作法ニ依レハ年小作ノモノニ限りタリト
雖本道ハ新開ノ土地ニシテ舊開地ト大ニ其狀況ヲ異ニス新設
スヘキ諸般ノ事業多々アレハ此條項ヲ設ケ努メテ改良ヲ獎勵
スルノ必要ヲ認メタリ

一、各小作地間、市場、荷積場等ノ交通運搬用ニ供スル道路

ヲ開通スルカ或ハ一村若クハ各小作地全體ノ使用ノ爲メ疏
水排水溝ヲ通スルカ或ハ農産物製造用ノ爲メニ瀦水場ヲ設
ル等ノ場合ニハ多數小作人又ハ公共ノ爲メナレハ一個人ノ
爲メニ永年間其ノ事業ヲ停滯スルハ大ニ不利益ナレハナリ
二、土地ノ崩壞ヲ拒キ又ハ作物庇護ヲ爲メ風防林ヲ造リ或ハ
衛生上ノ必要ヨリ樹木栽植ノ必要起ルコトアランニ一人ノ
爲メニ多數ノ利益ヲ害シ又ハ土地ノ崩壞ヲ放置スヘキモノ
ニアラサルヲ以テナリ

三、石炭、金、銀、銅、鐵類ヲ發見採掘シ或ハ石材ヲ取り煉
瓦ヲ造リ道路用等ノ砂礫ヲ取り或ハ是等事業ニ必要ナル建
設物ヲ爲ス等ハ其土地ニ固有ノモノニシテ國益ヲ増シ地方
ヲ富マシメ又多數農家ノ副業ヲ得セシムル等利益多キモノ
ニシテ既ニ鑛業條例等ニ於テモ此趣旨ヲ認了セリ是レ此ノ
規定ヲ設ケシ所以ナリ

第四十條 前三條ノ場合ニ於テハ小作人ハ其年度末ニ
小作地ヲ返還スヘシ

但第三十八條第七號第九號前條第一號第二號ノ場合
ニ於テ急速ヲ要スヘキトキハ此限ニ非ス

本條ハ前二條ニ定メタル小作地全部若クハ一部分ノ解約ニ付
キ返附期ヲ定メタルナリ小作人既ニ耕作準備ヲ爲シ又ハ播種
栽培セル後直チニ土地ヲ取上ケラル、コトアラハ假シ賠償ヲ
得ルモノニモセヨ小作人ノ不利益タルヲ免レス故ニ止ムヲ得
サル第三十八條第七號第九號及前條第一號第二號ノ場合ニ於

テ急遽ヲ要スルモノ、外ハ總テ年度末ニ返附スヘキコト、規定セリ

第四十一條 第三十九條ニ依リ小作人小作地ノ一部返

還ノ請求ヲ受ケタルトキハ三十日以内ニ地主ニ對シ其年度限り小作契約ノ解除ヲ要求スルコトヲ得

第三十九條ニテ小作地一部分ノ解約ヲナシ得ルコトヲ規定セリ然ルニ一部分ヲ返附セハ小作地積減少シ契約當時ノ目的ニ反スルモ尙ホ契約期限中解約ヲナス能ハストセハ小作人ハ大ニ困難ヲ來スモノアラン且ツ地主ニ一部分取戻ノ權利ヲ與ヘタル以上ハ小作人ニ對シテ亦救済ノ權ヲ與ヘサルヘカラス故ニ小作人ニシテ若シ當初目的ニ反シ農業經營ノ見込ナキトキハ解約ヲ要求スルコトヲ得セシメタリ然レトモ地主カ一部分取戻ノ通知ヲナセル時小作人ハ直チニ解約ノ申込ヲナサ、レハ地主カ新入小作人ヲ求メ又ハ其他ノ經營準備ヲ充分ニ爲スコト能ハサルヲ以テ通知ヲ受ケシ日ヨリ三十日以内ト規定セリ是レ英國小作法ノ既ニ施行シツ、アル所ナリ

第四十二條 小作廢止ノ年度ニ於テ地主若クハ地主カ

契約セル新小作人小作地ニ於テ耕耘其他ノ準備ヲ爲サントスルトキハ小作人ハ自己ノ耕作收穫等ノ妨害トナラサル限りハ之ヲ拒ム事ヲ得ス

契約期限中ハ小作人ノ使用權アルモノニシテ他ノ妨害ヲ受ケサルハ勿論ナレトモ農業ナルモノハ自然力ノ支配ヲ受クルコト他業ニ比シ最モ多ク一朝時期ヲ失スルトキハ收穫ヲ得サルカ又ハ少ナカラサル損害ヲ受クルコトアリ地主又ハ新入小作

人カ其翌年度ノ耕作其他ノ準備ヲナサントスルトキニ若シ自己ノ障害トナル場合ハ契約期限中ナルヲ以テ充分ニ拒絶スルノ權アリト雖若シ毫モ耕作收穫等ノ妨害トナラサル限りハ經濟上及農業上ヨリ地主又ハ新入小作人ノ準備ヲ爲サシムルヲ至當トス

第七章 耕作

第四十三條 小作契約ニ於テ植物ノ種類ニ依リ制限若

クハ特約アルトキハ書面ニ明記スヘシ

地主小作人ノ合意上亞麻藍等其他或種ノ作物栽培ヲ禁スルコトアリ或ハ亞麻甜菜太麻其他ノ作物栽培ヲ特約スルコトアリ斯ノ如キ條件ハ必ス小作契約書中ニ明記スヘシ然ラサレハ一方ニ於テ契約履行セサルコトアルモ既ニ第十一條ノ結果ニヨリ契約書中ニ記載セサル事項ハ無効トナルヘク又此ノ如キ契約ハ幾分か小作人ノ權利内ニ浸入セルモノナルヲ以テ必ラス書面ニ明記セセシムルコト、セリ

第四十四條 小作人ハ小作期間外ニ渉ル作物ヲ耕作ス

ルコトヲ得ス

小作人カ契約期間外ニ渉ルヘキ作物ヲ耕作シ能ハサルハ勿論ノ事情ナリト雖猶正確ヲ保タンカ爲メニ此規定ヲ設ケタリ小作人ノ作物カ翌年度ニ涉リシトキハ是ヲ以テ契約繼續ヲナスノ口實トナシ又ハ收穫ヲ待ツ等ノコトアラハ大ニ煩雜ト弊害ヲ生スルノ惧レアリ故ニ本條ニ於テ明ラカニ之ヲ制限セリ

第四十五條

小作人小作地ニ永年生ノ植物ヲ栽植セシトスルトキハ小作地返還ニ際スル處分方ヲ定メ地主ノ承認ヲ要ス

小作人カ小作地ニ永年生ノ植物即チ果樹牧草ノ如キモノヲ栽植スルハ一ハ收利上ヨリ一ハ小作人ヲシテ永濟ノ念ヲ喚起スルノ一助トナルモノナレハ取ルヘキノ方法ナリトス然レトモ是等ノモノハ小作契約期間外ニ渉ルモノナレハ豫メ處分法ヲ定メ置カサレハ小作廢止ノ際紛議ヲ生シ易シ故ニ其事ヲ地主ニ於テ承諾セルトキハ小作滿期ノ際其物ハ相當時價若クハ割引ニテ買收スルカ或ハ小作人ニ於テ自由ニ處分シ土地ニ對スル損害ハ賠償ヲナスカ當事者間ニ於テ確然タル契約ヲナシ置クコト大ニ必要ナルナリ

第四十六條

小作人前二條ノ規定ニ反シ植物ヲ栽植シタルトキハ小作廢止前ニ之ヲ除去スヘシ

小作人前項ノ除去ヲ爲サ、ルトキハ其植物ハ地主ノ所ニ歸ス

本條ノ場合ニ於テハ小作人賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

前條ニ於テ小作人ハ契約期限外ニ渉ルヘキ作物ヲ栽培スルトトヲ禁シタリ然ルニ若シ小作人カ之ヲ耕作セルトキハ本條例ニ違反セルナリ故ニ此ノ如キモノニ向テハ小作廢止前ニ除去セシメサルヘカラス若シ小作人カ除去セサルトキハ假令ヒ如何ナル作物ヲ植付アリトモ之ヲ抛棄シタルト見做シ小作廢止

二つの北海道小作法草案按竝に理由書

前ニ除去セサルトキハ地主ノ所有ニ歸セシメタリ而シテ此場合ニ於テ小作人ハ賠償請求ヲ得サルコト、セリ

第八章 土地改良

第四十七條 小作人小作地ノ變更又ハ改良ヲ爲サント

スルトキハ地主ノ承認ヲ要ス

但シ地主ハ永久ノ損害ヲ生セサル限りハ理由ナク之ヲ拒ムコトヲ得ス

小作人ハ小作地ヲ使用スル權利ヲ有スレトモ變更又ハ改良ヲナス權利ハ當然使用權ヨリ生スルモノニアラサルカ故ニ地主ノ明示ノ許諾ヲ經ルニアラサレハ爲スコト能ハス之ニ反シテ小作人カ借地ニナス變更又ハ改良ハ正當ナラス是レ契約ニヨリ借地ノ使用權アルモ處分權アルモノニアラス若シ小作人カ所有者ニアラサレハ爲スヘカラサルコトヲ行フタルトキハ其ハ小作權ノ範圍ヲ脱シタルモノナリ小作人カ擅ニ借地ノ變更ヲナス行爲ニ就テハ地主ハ期間ノ滿了ヲ俟タスシテ之カ停止ヲナスコトヲ得ヘシ然レトモ土地ニ損害ヲ加ヘ或ハ地價ヲ減スルコトナクシテ小作人ノ業務ニ必要ナル範圍内ニ於テ地上ニ建設物ヲナシ或ハ他ノ改良ヲ加フルカ如キ行爲ニ付テハ差支ヘナカルヘシ而シテ之レカ爲メニ借地ニ附着スル建設物或ハ他ノ改良物ヲ破毀スルコトヲ得サルハ勿論ナリ此ノ如ク小作人ハ借地年限ノ滿期ニ於テ始メニ借受ケシトキト同様ニ恢復スルコト能ハサルカ如キ實質上及永久ニ渉ル變更ヲ加フル改良若クハ變更ヲ爲スコトヲ得サルモノナリト雖小作人事實上小作地ニ對シテ充分ニ改良ヲ施スニアラサレハ其權利ノ目

的ヲ達スルコト能ハサルコトアルヘシ例ヘハ荒蕪地ヲ開墾シ
沮洳地ヲ乾燥シテ畑地トナスカ如キハ所有者ノ爲メニ利ノミ
アリテ毫モ害アルコトナシ此ノ如キハ兩者ニ利アルヲ以テ禁
スルノ必要ナク又實際ニ於テモ禁スルモノナカルヘシ假シ又
變更スルトモ原形ニ復スルニ於テハ敢テ差支ヘナキカ如クナ
レトモ其恢復ニ非常ノ費用ヲ要シ又ハ遂ニ恢復スルコト能ハ
サルモノアラン然レトモ小作人カ水田トナス方利アリト信ス
ルモ却テ永久ノ爲メニ損害トナリ又肥料トシテ使用スルモ石
灰ノ如キヲ卑濕ノ地ニ施セハ地勢ヲ造リ瘠土トナスコトアリ
又普通畑地ニテモ之ヲ使用セハ無機物有機物ノ分解作用ヲ増
進シ連年使用セハ遂ニ瘠薄ノ土ト化スヘシ此ノ如キハ契約期
間短キ者ノ屢々行フ所ニシテ獨リ此輩ノミナラス無智ノ徒又
此舉ナシトセス故ニ本條ニ於テハ此等ノ點ヨリ總テ土地ノ變
更改良等ハ地主ノ承諾ヲ要スルコト、セリ而シテ前ニモ屢々
述ヘタル如ク小作人ニ對シテハ充分ニ使用權ヲ附與スヘキモ
ノナレハ必要有効ナル變更改良ハ充分ニ勵行セサルヘカラス
故ニ土地ニ永久ノ損害ヲ生スヘキモノ、外地主ハ理由ナク其
改良變更ヲ拒絶スルコトヲ得サラシメタリ

第四十八條 地主前條ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ十五日

以內ニ何等ノ通知ヲ爲サ、ルトキハ承諾セルモノト
看做ス

前條ニ於テ土地ノ改良ハ地主ノ承諾ヲ要スルコトト定メタル
以上ハ事業ノ性質ニヨリ速カニ着手セサルモノアリ然レニ地
主之ヲ放置セルトキハ小作人ハ非常ニ迷惑ヲ感スヘキヲ以テ

本條ニ於テ地主カ通知ヲ受ケントキハ十五日間内ニ必ラス諾
否ヲ與フヘキコト、セリ若シ十五日間ヲ經過スルモ尙ホ返答
ナキニ於テハ之ヲ承諾セシモノト認メテ其事業ニ着手シテ可
ナリ本條ニ於テモ亦受信主義ヲ取レリ尤モ地主遠隔ノ地ニ住
居セルトキハ第九條ニ代理人ヲ置クコトヲ定メタルヲ以テ實
際上差支ヘナカルヘシ

第四十九條 小作契約ニ於テ小作地ニ屬スル用惡水路

作場垣籬建物等ノ修繕及土地變更改良ニ要スル費
用ノ負擔ヲ設定シタルトキハ書面ニ明記スヘシ

小作地ニ屬スル用惡水路耕作垣籬木柵建物等ノ建設ハ大抵
地主ノ負擔トシ修復ノ如キハ小作人ノ負擔トセリ然レトモ本
道ニ於テハ習慣ノ存在ヲ認メサルト賠償ノ際紛議ヲ生スルヲ
豫防スルカ爲メニ豫メ相互ノ負擔ヲ定メ置クコト兩者ノ利益
ナリ

米國紐育洲ニ於テ普通法ヲ變シテ地主カ貸地ヲ修繕スルコト
ヲ規定セリ同州千八百六十年ノ法律ニ小作地使用ニ堪ヘサル
トキニ及ヒタルトキ小作人ハ返地シテ其後ノ地代ヲ拂ハサル
コトヲ得セシメタリ其法文ノ結果トシテ地主カ修繕セサルヘ
カラサルニ至レリ「ルイジアナ」州ニ於テモ亦然リ此州法ハ
地主カ貸地シテ常ニ使用シ得ヘキ程度ニアラシムルコトヲ擔
保スヘキモノナリトノ趣旨ニ出テタルナリ然レトモ他ノ場合
ニ於テハ當事者間ノ隨意ニ契約スルコトヲ得セシメタリ若シ
家屋破損ノ時其保護ヲ所有者ノ負擔ト定メタルトキニ其修繕
費用ヲ小作人カ支出シタルトキハ小作料ヨリ相殺スルコトヲ

得ルナリ然レトモ之ヲ爲スニハ小作人ハ豫メ地主ニ通知シテ承諾ヲ得ルコトヲ要ス裁判長「サ・エージ」氏ハ地主ト小作人トノ間ニ特殊ノ契約ヲシテ修繕ヲ爲サシムル條件ヲ存セサル限りハ小作人ハ地主ヲシテ修繕費ヲ負擔セシムル權利ナシ要スルニ小作人ハ借受物ヲ現狀ノ儘ニ取扱フヘキモノナルヲ以テ地主ノ承諾ヲ得スシテ修繕ヲ爲シタル費用ヲ地主ニ負擔セシムルコトヲ得ストセリ

此ク類例ニ徴スルモ建設物ノ修繕或ハ土地ノ變更改良ニ對スル地主小作人ノ負擔ハ元ト一定セルモノニアラス故ニ負擔ヲ定メタルトキハ之ヲ契約書ニ明記セシムルコト、セリ

第五十條 小作契約ニ前條ノ費用負擔ヲ定メサルトキハ總テ地主ノ負擔トス

但任家ノ修繕及用惡水路作場道ノ小修繕等ハ小作人ノ負擔トス

前條ニ依ラス小作契約ニ其負擔ヲ定メ記載セザリシモノアルトキハ總テ地主ノ負擔トセリ夫レ地主ハ小作人ニ比シテ優者ノ地位ニアリ又智識財産及經驗等ハ小作人ニ優ルモノト見サルヘカラス殊ニ本邦地主小作人ニ於テ然リトス且ツ地主ハ己ノ所有地ヲ貸附スルモノナレハ利害ノ關スル所小作人ニ比シ甚タ深遠ナルノミナラス元來土地ニ附帶セルコトナレハ若シ契約ナキ場合ニハ總テ地主ノ負擔トセリ然レトモ其中ニテ當然小作人ノ負擔ヘキモノアリ之ヲレモ尙ホ契約ナキノ故ヲ以テ地主ニ負擔セシムヘキモノニアラス即チ小作人住家ノ修繕及用惡水路作場道等ノ少シク破損セルトキ其始メニ注意セ

ハ大破ニ至ラスシテ止マン此等ヲ悉ク地主ニ通知シ修繕セシムヘキニアラス小作人モ等シク其利益ヲ蒙リツ、アルナレハ小作人カ僅少ノ勞働ニテ修繕シ得ヘキモノハ當然小作人之レヲ行フヘキナリ是レ本道現行ノ事實ニ徴シ且ツ各國類例ニ依ルモ其探ヲ一ニセリ尤モ賠償ノ場合ニ於テ修繕ノ大小ハ文字ヲ以テ區別シ能ハサレハ鑑定ニ委スルノ外ナシ

第五十一條 小作人灌溉渠排水溝等ヲ施設セント欲スルトキハ三ヶ月以前ニ其必要ナル理由並ニ工事方法ヲ定メ地主ノ承諾ヲ得ヘシ

排水溝灌溉渠等ノ設置ハ農地ニ重大ノ關係ヲ有スルモノニシテ能ク地質地勢等ヲ考察シテ其廣狹深淺匂配等ヲ定メ着手セサルヘカラス後米大農の小作ノ起ルニ及ンテハ殊ニ慎重ヲ要シ輕々ト承諾スヘキニアラス故ニ本條ハ英國小作法ニ則リ是等改良工事ニ限リ三ヶ月以前ニ地主ニ通知シ充分ノ調査ヲナサシメテ諾否ヲ爲サシムルコト、セリ又當ニ其工事ノ必要ノミナラス其費用保存年限距離深淺廣狹等ハ土地永久ノ改良ニ屬シ且シ賠償等ノ問題ナルモノナレハ其必要ナル理由工事設計書等ヲ地主ニ致シテ承諾ヲ受クルコト、規定セリ

第五十二條 既肥人造肥料其他賣品ノ肥料ヲ使用スルニ付テハ地主ノ承諾ヲ要セス

用惡水路道路建設物等ハ小作地ニ重大ノ關係ヲ有シ且ツ解約ノ場合ニモ亦關係アレトモ肥料ノ如キハ當然使用スヘキモノニシテ耕作上缺クヘカラサルモノナリ故ニ地主ノ承諾ヲ得ルノ必要ナキモ若シ其養分ニシテ解約後ニ迄存留スルモノナラ

ハ相當ノ賠償ヲ得ルコトハ第六十一條ニ規定スル所ナリ然レトモ普通最モ多ク用フル所ノ人糞ノ如キハ一年ニシテ其効消滅スレトモ厩肥ノ如キハ三年間モ持續シ其他ノ販賣肥料ニテモ二三年ニ渉ルモノアリ是等ハ解約後ニ至リテモ其効存留スルニ當リテハ賠償ヲ得ヘシ然ルニ第四十七條及第六十一條ニ依リ如何ナル改良ニテモ地主ノ承諾ナキモノハ賠償ヲ要求スルコトヲ得スト規定セルモ本條ニ掲クル肥料ノ如キハ年々必然使用スヘキモノナレハ地主ノ承諾ヲ要セスト規定セリ

第五十三條 前條肥料ニシテ滿期二ヶ年前ヨリ使用スルモノニ付テハ其種類數量價格使用時期等ヲ地主ニ

通知スヘシ

前條ノ理由ニヨリ小作人ハ肥料ヲ使用スルニ付テハ地主ノ承諾ヲ要セザレトモ賠償問題ノ起リシトキ鑑定材料ニ供シ之ヲシテ容易ナラシメンカ爲メニ使用セル肥料ノ種類數量價格年月日等ヲ地主ニ通知セシムルコト、セリ然レトモ肥料ノ使用ニ付テハ前々ヨリ通知スルノ必要ナシ即チ賠償ヲ要スヘキハ其營養分二ヶ年以上ニ渉ル肥料ノミニ限ルト養分ノ三ヶ年以上ニ持續スルモノナキヲ以テ滿期二ヶ年前ヨリ使用スル前條ノ肥料ニ限ルコト、セリ

第五十四條 小作契約ニ於テ特ニ肥料ニ付制限ヲ設ケ

タルモノアルトキハ書面ニ明記スヘシ

肥料ニ付テハ前屢々陳フル所ナリ假令ハ石灰ノ如キハ使用シテ利益アルコトアルモ其方法如何ニヨリテハ大害ヲ生スルコトアレハ契約書中之レカ使用ニ付明記シ置クコト必要ニシテ

小作人ノ使用ニ放任シ置クヘキモノニアラス故ニ本條ニ於テ或種類ノ肥料ノ施用ニ付キ制限ヲ定メタルトキハ必ス記載セシメ置クコト、セリ

第九章 質抵當賣買

第五十五條 地主小作地ヲ第三者ニ賣渡サントスルト

キハ豫メ小作人ニ通知スルヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ開墾小作人ハ同一價格ヲ以テ第三者ニ先ツテ小作地ヲ買取ルコトヲ得

本條ハ地主カ小作地ヲ他人ニ賣渡サントスルニ當リ豫メ小作人ニ通知セシメ特ニ開墾小作人ハ小作地ニ對シ先買ノ權アルコトヲ規定セリ小作人ノ多クハ小作地ニ定住シ小作地ノ耕作牧畜ヲ以テ其生活ノ根據トスルモノナレハ其小作地ニ對シテハ地主ニ次テ最モ直接ナル關係ヲ有スルモノナリ故ニ地主ニ於テ小作地ノ所有權ヲ他ニ移轉セントスル場合ハ豫メ小作人ニ通知セシメ小作地ノ所有權移動ニ付小作人ト地主トノ間ニ可及的他日ノ苦情爭議等ナカラシメンコトヲ希望セシモノナリ

第二項ニ於テ開墾小作人ニ小作地ノ先買權ヲ與ヘタルハ開墾小作人タルヤ實ニ其小作地未開ノ時ヨリ手ヲ下シ親シク耕作又ハ牧畜ニ從事セルモノナレハ土地ニ對スル功勞最モ多ク且ツ其小作人一家ノ利益ハ實ニ其小作地ト共ニスル密接ノ關係アルモノナレハ地主カ小作地ヲ第三者ニ賣渡サントスルトキニ當リ小作人ノ資力幸ニ同一ノ價格ヲ以テ之ヲ買取ルコトヲ得ルニ於テハ從來ノ關係ナキ第三者ノ所有トナサシムルヨリ

其小作人ニ買取ノ權利ヲ與フルハ經濟上並ニ土地整理上ニ於テモ其當ヲ得ルノミナラス人情ニ於テモ能ク適スヘキモノト信スレハナリ

第五十六條 地主小作地ヲ讓與シ又ハ質權若クハ抵當

權ヲ設定セルトキハ三十日以内ニ小作人ニ通知スヘシ

本條ハ地主カ小作地ヲ無償ニテ讓渡ヲ爲シ又ハ小作地ニ質權抵當權ヲ設定シタルトキニ當リ其旨ヲ小作人ニ通知スル義務ヲ負ハシメタルモノナリ何ントナレハ無償ノ讓渡ヲナセシ場合ハ地主ト第三者トノ間ニ金錢授與ノ有無ニヨリ差アルノミニシテ所有權ヲ移動スル點ニ於テハ前條第一項ト異ルコトナケレハナリ前者ハ無償ニ出ツルモノナレハ開墾小作人ナルトキハ先買權ヲ實行スルコトアリ又開墾小作人ナラスト雖豫メ通知ヲ受ケタルトキ地主ト協議ノ上小作人ニ於テ買取ルコトナシトセス然レトモ無償ノ讓受ハ多ク地主ノ親族又ハ特別關係ヨリ生スルモノニシテ其土地ヲ小作人ニ於テ買取ル等ノ事ナケレハ豫メ通知ノ必要ナク只タ所有權ノ移動セシコトヲ小作人ニ通知スレハ足レリ故ニ質權抵當權ト共ニ本條ニ掲ケタリ又質權者ハ其質權ノ擔保トシテ小作地ノ使用及ヒ收益ヲ爲ス權利ヲ有シ且ツ小作地ニ關スル總テノ負擔ノ任アルモノナレハ質權存續中ハ恰モ地主ノ地位ヲ繼承セシモノナレハ小作人ハ小作料ノ支拂及小作廢止ニ際シ土地ノ改良其他相互ノ間ニ賠償關係等ヲ生スルモノナレハ小作人ニ於テ重大ナル關係ヲ生スルモノナリ抵當權者ハ質權ノ如ク直接ニ小作人トノ關

係ヲ生スルモノニアラスト雖其債權擔保トシテ小作地ニ優先權ヲ有スルモノナレハ若シ地主カ債務履行ヲ爲サ、ルトキハ多クハ抵當權者其抵當地ヲ所有スルコト、ナリ且ツ小作人ノ其抵當トナリタル小作地ノ上ニ建設物其他ノ附屬物ヲ有スルモノアルヘキモノナレハ其事柄ヲ知得セシムルノ必要アリ故ニ本條ニ於テ地主カ無償讓與ヲ爲シ又ハ質權抵當權ヲ設定セルトキハ其旨ヲ小作人ニ通知セシムルコト、ナセリ其三十日ヲ以テ通知ノ期間トセルハ通知ニ關スル猶豫期ヲ推定セルモノナリ

第五十七條 小作人小作地ノ作物ニ付抵當權ヲ設定セ

ントスルトキハ地主ノ承諾ヲ要ス

本條ハ小作人カ小作地ノ作物ヲ他人ニ抵當セントスルトキニ關スル場合ヲ規定セルモノニシテ此場合ハ必ス地主ノ承諾ヲ得テ抵當トナスヘキ旨ヲ定メタリ何ントナレハ本條例第二十七條ニ於テモ小作料ヲ意納セルトキハ地主ハ小作地ノ作物ヲ差押フコトヲ得其他地主ハ小作人ニ對シ總テノ債權ヲ有スル地位ニアルモノナレハ作物ヲ抵當セル如キ行為ハ地主ニ最モ利害ノ關係アルモノナレハ若シ其作物ヲ抵當トセルトキニハ豫メ地主ノ承諾ヲ受クコト、スレハ斯ル場合ニ於テ差支ヘラ生セサレハナリ本道ノ實例ニ於テモ所謂青田ノ賣買ノ如キ其他農地附近ノ商人ニ對シ農家カ收穫物ヲ引當ニ金品ノ借り入ヲ爲スモノ往々見ル所ナリ是レ本條ヲ規定セル所以ナリ

第五十八條 質權者ハ債務者カ質權設定前ニ爲シタル

小作契約ハ其契約期間中變更スルコトヲ得ス

本條ハ小作地ニ質權ヲ有スルモノニ對スル規定ニシテ債務者即チ地主カ質權ヲ設定セル前ニ小作人ト締結セル小作契約ハ後チニ質權ヲ得タルモノ即チ質權者カ其小作契約ノ滿了スルマテハ其契約セル總テノ條項ヲ變更スルコトヲ得セシメサルコト、セリ是レ一般ノ地主小作人ニ契約ヲ重セシメ容易ニ變更スルコトナク小作人ハ心ヲ安シテ小作地ニ忠實ナラシメサルヘカヲサルモノナルヲ以テナリ

第五十九條 小作地ノ全部若クハ幾部ノ賣買讓與ニ因リ地主變更セルトキハ小作契約期間内新地主ハ舊地主ノ爲シタル小作契約ノ條項ヲ變更スルコトヲ得ス但設定行為ニ依リ特定アルトキハ此限ニアラス

本條ハ小作地ノ賣買讓與ニ因リ地主ノ變更セル場合ヲ規定セルモノニシテ即チ新地主ハ舊地主カ小作人ト締結セル小作期間ノ滿了スルマテ變更スルコトナカラシメタルモノナリ是レ前條ノ理由ト同一ノ趣旨ニ出タリ然シナカラ最初小作契約ヲ締結セル以前ニ賣買讓與ニ關シ地主小作人ノ間ニ於テ特別ノ合意ニ出テタル定メアルトキハ強テ前項ノ限りニアラサルモノナレハ即チ但書ヲ設ケタル所以ナリ。

第六十條 第十五條ニ依リ土地分與ノ定メアルトキハ地主ハ土地ノ賣買讓與ニ因リ其契約ヲ變更スルコトヲ得ス

本條ハ地主カ小作人ニ土地ヲ分與スルコトヲ定メタルモノカ小作地ノ賣買讓與ニヨリ地主ニ變更ヲ生シタル場合ヲ規定セルモノナリ本條ハ前條ニヨリ小作契約條項ハ新地主變更スル

コトヲ得サルモノナレハ一見無用ノ如クナリト雖モ土地ノ分與ハ永遠ニ土地ノ所有權ヲ分割附與スヘキモノニシテ單ニ小作契約期間ノ滿了スルト共ニ消滅スヘキモノニアラサレハナリ土地ノ分與ハ本道ノ實例ニ往々アル所ニシテ其ハ多ク開墾小作人ニ對シ草分ノ功勞ヲ賞シ地主カ契約セルモノニシテ小作人ハ未來ニ土地分與ヲ得ルコトヲ樂ミ小作地ニ精勵スルモノナレハ一朝地主ノ變動ト共ニ斯ル重大ナル小作人ノ取得權ヲ失却セシムルハ不可ナリ何トナレハ土地分與ノ契約ハ概シテ未開地貸付中ニ締結セルモノニシテ地主ト雖完全ナル所有權ナキトキニ於テスルモノナレハ畢竟贈與ノ豫約タルニ過キサレハ若シ不徳ノ地主ニシテ故意ニ土地分與ノ約アルコトヲ

秘シ他人ニ土地ヲ賣却セルトキハ小作人ハ前地主ニ違約ノ賠償ヲ責ムルノ權利アルモ實際ニ土地ヲ得ルコトヲ得サルニ至ルコトナシトセス元來土地分與ハ畜ニ地主ノ恩惠的ノ贈與ニ出テタルノミニアラスシテ實體ニ於テハ小作人カ辛苦艱難セル努力ノ報酬トシテ得タル特約ナレハ法律ハ充分之カ保護ヲ爲スノ必要アリ即チ本條ニ於テ新地主カ賣買ノ當時充分スル契約ノ存セサルヤ否ヲ確メシメ苟モ其契約ノ存スル限りハ決シテ變更スルコトヲ得サルコト、セリ是レ本條ヲ設ケタル所以ナリ

第十章 賠 償

第六十一條 肥料ノ種類用量若クハ土地ノ使用方ニ因リ土地ヲ疲瘠ナラシメタルトキハ小作廢止ノ際地主ハ小作人ニ對シ相當ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得

小作料ハ單ニ土地ノ使用料ニ止マリ地力消耗ノ補償金ヲモ包含スルモノニアラス故ニ小作人カ土地ヲ使用シ返附スルニ際シテハ原形ニ復スヘキノ義務アリ若シ此義務ノ存セサルトキハ小作人ハ可及的土地ノ營養分ヲ消耗シテ瘠薄トナラシメ所謂掠奪農業ヲ行フニ至ルヘシ小作人カ肥料ヲ施サスニ作物ヲ栽培シ植物ノ吸盡セル養分ヲ土地ニ返還セヌ又ハ土地ニ不當ノ作物ヲ連作シ又ハ石灰ヲ使用シテ水田ヲ荒廢セシメ或ハ畑ヲ瘠薄ナラシメタルトキハ地主ハ大ニ損害ヲ蒙ルムナリ農業發達土地改良上小作人ヲシテ此ノ如キ舉動ナカラシメ又地主ヲシテ損害ヲ免カラシメンニハ一方ニ小作人ニ賠償ノ責アルコト、セサルヘカラス是レ本條ニ規定セル所以ナリ

第六十二條 第四十七條ニ依リ小作人小作地ノ變更若クハ改良ヲ爲シ小作地ノ價值ヲ増加セルトキハ小作廢止ノ際地主ニ對シ相當ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得賠償ノ目的タルヤ土地ノ瘠薄衰頽ヲ拒キ改良ヲ増進スルニ外ナラス若シ賠償ノ方法ナキトキハ小作人ハ契約満期ニ近ツクニ及ヒテハ肥料ヲ施用セズ改良ヲナス可及的地力ヲ消耗スルニ至ラン爰ニ至テカ農業ノ發達決シテ望ムヘカラス然ルニ賠償ヲ與フルコト、セハ小作人ハ假令ヒ滿期ニ近ツクモ安シテ充分ノ肥料ヲ施シ地力ヲ増進スルコトヲ得ヘシ且ツ前條ニ於テ小作人ヨリ地主ニ賠償ヲ出スコト、セルヲ以テ其結果又小作人ニモ賠償セサルヘカラス畑地ヲ田ニ變更シ又ハ低地ヲ埋立テ、畑トナシ或ハ新ニ畑水田ヲ開キタルトキハ同シク賠償ヲ要求スルコトヲ得然シ何レモ地主ノ承諾ヲ得タルモノニ

アラサレハ賠償要求ノ權利ナキナリ

第六十三條 小作人地主ノ承諾ヲ得テ前小作人ニ土地改良ノ賠償ヲ爲シタルトキハ自己ノ小作廢止ニ際シ其賠償ヲ爲シタル改良ニ付地主ニ賠償ヲ要求スルコトヲ得

小作廢止ニ際シ地主カ其小作人ニ賠償ヲ爲サ、ルカ爲メニ新入小作人カ地主ニ代リテ賠償金ヲ支辨セルカ又ハ單ニ新入小作人カ舊小作人ニ其小作地ニ施セル改良ニ付賠償ヲ支拂フコトヲ地主ニ通知シ地主之ヲ承諾セルニ於テハ地主ハ既ニ新入小作人ニ債務ヲ有スルモノナリ故ニ其小作人カ解約ヲナス場合ニ其債務ヲ果スハ當然ノ義務ナルヘシ

第六十四條 小作人小作契約ニ定メタル耕作方法又ハ耕作物ノ制限ニ反シ若クハ地主ノ承諾ヲ得スシテ永年生ノ植物ヲ栽植セシクメ地力ヲ消耗シ又ハ耕耘ノ勞費ヲ増シ損害ヲ生シタルトキハ小作廢止ニ際シ地主ハ小作人ニ對シ相當ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得

小作人契約書ニ制限シタル作物假令ハ亞麻、甜菜或ハ藍等ヲ耕作セルヨリ地力ヲ減耗セル時又ハ輪作法ヲ實行スル契約アルニモ拘ハラズ或ル作物ヲ連作シ又ハ地主ノ承諾ヲ得ス任意ニ果樹等ヲ植付ケタル爲メニ地力ヲ減シ耕作ニ障害ヲ生シタル等ノ場合ニハ素ヨリ契約條件ニ違反セルヲ以テ解約シ得ヘキモ猶小作人ハ賠償ノ責任ヲ免ル、コト能ハス故ニ此ノ如キ場合ニハ地主ハ小作人ニ賠償ヲ要求スルコトヲ得トセリ

第六十五條 第四十九條、第五十條ニ規定セル費用ヲ

支辨セス又ハ其不作爲ヨリ生スル損害ハ他ノ一方ニ對シ賠償ヲ要求スルコトヲ得

第四十九條及第五十條ニ規定セル即チ土地變更改良或ハ修繕等ノ費用ニ付各自ノ負擔ヲ契約セルトキ又ハ契約ナキ場合ニ於テ本條例ニ定メタル負擔ニシテ一時他ノ一方ニ於テ之ヲ行ヒタルトキハ所謂事務管理ノ行爲ニシテ又一方ノ當然ナスベキ事業ニシテ之ヲナサ、リシカ爲メニ損害ヲ生セル場合ニハ是レ其懈怠ヨリ生シタル結果ナリ故ニ他ノ一方ハ之ニ向ツテ賠償ヲ要求スル權利アルコトヲ規定セリ

第六十六條 小作人疎虞懈怠ニ因リ小作地ニ屬スル用

惡水路作場垣籬木柵建物等ヲ毀損シ又ハ滅失セシメタルトキハ地主ハ小作人ニ對シ賠償ヲ要求スルコトヲ得

用惡水路耕作路垣籬木柵建物等ノ使用ニ付注意ヲナスヘキハ小作人ノ當然遵守スヘキ義務ナリトス然ルニ小作人カ不注意疎略ノ舉動ヨリ之ヲ毀損シ又ハ防禦スルコトヲ得ヘキモノニシテ之ヲ爲サ、ルカ爲メニ滅失シ又ハ不注意ヨリ滅失セシメタル時ハ地主ハ是カ賠償ヲ要求スルコトヲ得ルコト、セリ本條ハ間接ニ小作人ノ不注意ナル舉動ヲ豫防スルニアリ

第六十七條 小作人第三十八條第八號ノ場合ニ於テ其

返還ヲ命セラレタル原因カ自己ノ懈怠又ハ不作爲ニ非ラサルトキハ地主ニ對シ其損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得

前項ノ原因カ小作人ノ懈怠又ハ不作爲ニ出テタルトキハ地主ニ於テモ亦同シ

小作人カ貸付中ノ小作地ニ入りテ誠實誠意ニ自己ノ業務ヲ取り居ルニモ拘ハラズ地主タルモノ、不注意懈怠若クハ其他ノ事情ノ爲メニ北海道國有未開地處分法ニヨリ其貸付地カ返還ヲ命セラレタルトキハ非常ノ迷惑ヲ感スヘク又其損害モ少ナカラサルモノアラン故ニ其損害ニ付テハ責任地主ニ在ルヲ以テ小作人ヨリ賠償ヲ要求スルコトヲ得ヘシ又右ノ結果トシテ地主カ小作人ノ懈怠不作爲ヨリ返還ヲ命セラレ損害ヲ蒙リシトキハ小作人ニ賠償ヲ要求スルコトヲ得トセリ是レ賃ニ相互ノ權衡ヲ保ツニ於テ當然ニシテ本條ノ精神ハ猾手段ヲ用フル地主ノ惡行爲ヲ拒キ又小作人ノ怠慢ヲ防クニアリ

第六十八條 質權設定期間中小作契約ノ結了セルトキ

ハ小作人ハ第六十一條、第六十二條、第六十六條、第六十七條ノ賠償ハ質權者ニ對シ之ヲ要求スルコトヲ得

本條ハ小作人カ地主ニ賠償ヲ要求スルト同様ニシテ只質權設定中ハ其土地ニ關シテハ質權者ハ地主ノ位置ニアルモノナレハ順序上此規定ヲナスノ必要アリ而シテ質地受戻シノ際ニ若シ質權者カ賠償ヲ拂ヒ又ハ受取タルトキ質權設定者ト質權者トノ處分法ハ民法第三百四十六條及第三百四十七條ノ規定アルヲ以テ敢テ本條例ニ贅スルノ要ナシ

第六十九條 第三十七條ニ依リ解約スルトキハ其解約

ヲ申出タルモノニ對シ他ノ一方ヨリ其小作地半ヶ年ノ小作料ニ相當スル賠償ヲ要求スルコトヲ得

小作契約ハ其期限内破約スルコト能ハサルヲ以テ原則トス然レトモ吾人カ變動定メナキ社會ニ生活スル以上ハ如何ナル事情ノ爲メニ破約セサルヘカラサル場合ナキニ限ラス之ヲシモ全然制限スルハ甚タ正當ヲ失シタルモノナリ故ニ第三十九條ニ於テ已ニ之ヲ認メタリ然レトモ若シ兩者ニ於テ毫モ責任ヲ負フコトナキトキハ如何ナル事情ヲ捏造シテ解約ヲ請求スルヤ知ルヘカラサルヲ以テ本條ニ於テ其義務ヲ負ハシメンカ爲メ即チ猥リニ解約ヲ要求シ能ハサルシメンカ爲メニ解約申込者ハ他ノ一方ニ對シ半ヶ年分ノ小作料ニ相當スル賠償金ヲ提出セシムルコト、セリ而シテ此ノ如キ解約ハ十二ヶ月前ニ通知ヲ要スルコトハ第三十九條ニ規定セルヲ以テ地主ハ新入小作人ヲ求ムルニ小作人ハ新小作地ヲ撰定スルニ充分ノ時日ヲ有スヘシ故ニ一ヶ年分ノ賠償ヲ與ヘサルモ可ナルヘキヲ以テ破約金トシテ半ヶ年分ノ小作料額ト定メタリ

第七十條 本條例ノ規定ニ依リ賠償ヲ得ントスルトキハ他ノ一方ニ對シ賠償ノ原因請求金額年月日等ヲ明記セル要求書ヲ三十日以前ニ提供スヘシ

本條例ニ依リ賠償ヲ要求セントスルトキニ其種類金額等ハ果シテ正鵠ヲ得タルモノナルヤ否ヤヲ調査セサルヘカラサルヲ以テ時日ト便宜ヲ與フル爲メニ其種類及着手セル年月日金額等ヲ明記シタル要求書ヲ賠償鑑定ニ着手スル三十日前ニ他ノ一方ニ提供セシムルコト、セリ

第七十一條 本章ニ依リ當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シ(「對スル」ノ誤カ編者)賠償ノ請求權ハ小作契約解除ノ日ヨリ滿一ヶ年ニシテ消滅ス

本條ハ賠償ノ時効ヲ規定セリ賠償ノ如キハ可及的の時日ヲ經過セサル中ニ着手スルコト鑑定容易ニシテ大ニ便宜ナリ長時日ヲ經過スルトキハ改良物件其他ノモノニ多少ノ變化ヲ來シ鑑定當リ得サルコトナキニアラス然リト雖賠償ノ如キハ兩者ノ權利ナレハ輕々ニ消滅セシムヘキニアラス殊ニ本道ノ如キハ融雪モ四月下旬ニ渉ルヲ以テ其時期中ハ事實上鑑定ヲナシ能ハサルモノアラン故ニ之ヲ一ヶ年ト規定セリ

第十一章 鑑定

第七十二條 第六十一條乃至第七十條、第八十三條ノ賠償金額又ハ第八十六條ノ價格ニ付當事者間ノ協議調和セザルトキハ鑑定人ノ評決ニ依ルヘシ
當事者ハ前項ノ評決ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

但鑑定人不正ノ評決ヲ爲シタル場合ハ此限ニアラス本條ハ本章ニ定メタル鑑定人ノ評決ニ依ルヘキ場合ヲ定メタルモノナリ即チ第六十一條乃至第七十條ノ地主又ハ小作人ヨリ他ノ一方ニ對シテ賠償ヲ請求スル場合ニ當リ其賠償金額ニ付當事者ノ間ニ於テ協議調和ハザルトキ又ハ第八十六條ニ依リ地主カ小作人ノ所有ニ屬スル附屬物ヲ買収セントスル場合ニ當リ其價格ニ付當事者ノ間ニ於テ協議調和ハザルトキハ次ニ定

ムル所ノ鑑定人ノ評決ニ依リテ定ムヘキモノトセリ何ントナレハ前記ノ如キ賠償額又ハ價格ニ付協議ノ調ハサルトキ悉ク裁判所ノ判決ヲ得テ事ヲ定ムルニ於テハ徒ラニ建訴ノ弊ヲ生シ且ツ質朴ナル農家ノ良風ヲ紊シ相互訴訟ニ關シテ種々ノ費用ヲ負フコト、ナルヘケレハ可及的之ヲ防止スルノ方法ヲ設ケサル可ラス故ニ次條ノ如ク當事者ニ於テ信用スヘキ人ヲ撰ミ且ツ行政廳ヨリ撰ヒタルモノヲ加ヘ公平ナル評定ニヨリテ爭ナカラシメンコトヲ希望セルナリ

第二項ハ前項ノ評決ニ對シ猥リニ異議ヲ申立ツルコトヲ得サル旨ヲ定メタリ若シ夫レ當事者カ異議ヲ申立ツルコトヲ得ルニ於テハ建訴ノ弊ヲ防キ農家ノ良風ヲ紊サ、ル爲メニ設ケタル本章ノ規定ハ爲メニ徒法ニ屬スルヲ以テナリ然レトモ鑑定人ト雖普通ノ人ナレハ時ニ利益又ハ情實ノ爲メニ公平ヲ失シ偏頗ニ陥ルコトナシト云フ可ラス故ニ其故意ニ偏頗ナル評決ヲナシタル事實アル場合ハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得セシメタリ

第七十三條 鑑定人ハ當事者各一名ヲ撰ミ相互ニ之ヲ通知スヘシ

本條ハ鑑定人撰定方法ヲ定メタルモノナリ即チ地主小作人共ニ各自己方信用スル人ヲ撰シテ相互ニ其旨ヲ通知スヘキモノトセリ其鑑定人タル資格等ニ付テハ北海道廳長官ノ權限ニ於テ發布スヘキ本條例施行細則ニ讓ルコト、ナセリ

第七十四條 前條ニ依リ當事者各一名ノ鑑定人ヲ撰定シタルトキハ其旨ヲ管轄行政官廳ニ届出ツヘシ行政

官廳ハ十四日以内ニ偏頗ナキ者一名ヲ撰定シ當事者ノ撰定セル鑑定人ト合セテ三名トスヘシ

本條ハ當事者カ撰定セル鑑定人ヲ行政廳ニ届出ツヘキコト及行政廳ハ更ニ鑑定人ヲ撰テ之ニ加フヘキコトヲ定メタリ是レ鑑定人ハ當事者ノ利益ヲ評決スヘキ任アルモノナレハ最も公平ナル人ヲ以テ之ニ宛テサルヘカラス然ルニ當事者双方各一名宛ヲ撰フノミニテハ時ニ其鑑定人ノ意見各極端ニ趨リ適當ナル評決ヲ爲ス能ハサルコトナシトセス故ニ其管轄ノ行政廳ニ於テモ誠實公平ナリト認ムルモノ一名ヲ更ニ撰ヒ都合三名ノ鑑定人トナシ相互ノ權衡ヲ保タシムルノ趣意ニ出テタルモノナリ

其十四日間ヲ行政廳ノ鑑定人撰定ノ期間トセルハ濫リニ遷延ニ流レサル爲メ一定ノ期間ヲ推定セルモノナリ

第七十五條 第七十三條ニ依リ當事者ノ一方カ通知ヲ爲セシ後他ノ一方ニ於テ十四日以内ニ鑑定人ヲ定メサルトキハ管轄行政官廳ニ鑑定人ノ撰定ヲ出願スルコトヲ得

鑑定人撰定ノ出願アリタルトキハ行政官廳ハ十四日以内ニ更ニ偏頗ナキモノヲ一名撰定スヘシ

本條ハ第七十三條ニ依リ當事者ノ一方カ十四日以内ニ鑑定人ノ撰定ヲ爲サ、ル場合ニ於ケル方法ヲ定メタルモノナリ即チ一方ニ於テ鑑定人ヲ撰定シテ通知ヲ爲シタル後十四日ヲ經過スルモ他ノ一方カ其撰定ヲ爲サ、ルトキハ行政廳ニ向ツテ鑑定人ノ撰定ヲ出願スルコトヲ得セシメタリ若シ然ラサレハ一

方ハ自己ノ便宜ニ依リ故意ニ鑑定人ノ撰定ヲ怠リ遂ニハ鑑定スヘキ物件ニ變化ヲ生スル等ノ恐レナシトセス故ニ十四日ノ期間内ニ相手方カ撰定ヲ爲サ、ルトキハ行政廳ニ出願ヲナシ其撰定ヲ請フコト、セリ本條ニ依リ行政廳カ鑑定人ヲ撰定スルハ前條ニ依リテ撰定スル場合ト異ナルヲ以テ本條ニ依ルトキハ行政廳ハ前條ノ場合ト合セテ三名ノ鑑定人ヲ撰ハサルヘカラス期間ノ日數ヲ定メタルハ前條ノ理由ニ同シ

第七十六條 第七十四條ニ依リ三名ノ鑑定人確定セルトキハ行政廳ハ鑑定人ヲシテ七日以内ニ鑑定ニ着手セシムヘシ

本條ハ行政廳カ鑑定人ニ對シ鑑定ニ着手スヘキ時期ヲ定メタルモノナリ即チ前數條ニヨリ鑑定人三名確定セルトキハ行政廳ハ七日以内ニ鑑定ニ着手スヘキ旨ヲ命令スルコトヲ定メタリ是又緩慢ニ流レンコトヲ慮リタルニ過キス

第七十七條 鑑定人ハ參考上必要ナル書類物件ヲ當事者ヨリ差出サシメ又ハ實地ニ就キ調査スルコトヲ得本條ハ鑑定人其鑑定上必要ナル材料ヲ當事者ヨリ提出セシメ又ハ實地調査ヲ爲スノ權利ヲ與ヘタルモノナリ是レ實ニ必然ノ結果ニシテ正當ナル鑑定ニヨリ賠償其他ノ價格ヲ評決セントスルニハ參考上必要ナル書類物件等ヲ閱覽シ且ツ親シク實地ニ就テ調査セサルヘカラサルモノナレハナリ

第七十八條 鑑定ニ要スル費用ハ總テ當事者双方均一ニ之ヲ負擔スヘシ
本條ハ鑑定ニ要スル費用ノ負擔ヲ定メタルモノナリ即チ當事

者双方平等均一ニ負擔スヘキコト、セリ何トナレハ本章ニ依リ鑑定人ノ評決ヲ得ルハ相互ノ間ニ協議調和セサル場合ニ於テスルモノナレハ曲直利害ノ一方ニ偏スヘキモノニアラス全ク相互ノ利益ノ爲メニ出ツルモノナレハ其費用負擔ニ付テモ亦相互均一ノ責ニ任スヘキハ理ノ然ラシムル所以ナレハナリ

第十二章 小作地附屬物

第七十九條 小作地ニ附屬セル建物其他耕作上使用スヘキ物件ハ地主小作地ト共ニ小作人ニ貸付セルモノト看做ス

但設定行爲ヲ以テ特別ノ規定アルトキハ此限りニアラス

地主ハ資本ヲ供シ小作人ハ勞働ヲ爲シ以テ農業ヲ營ムハ小作農業ノ組織ナリ小作地ニ建設物器械家畜或ハ果樹牧草等ヲ附帶スルアラハ悉ク貸與シテ是等ノ借料ヲ得ルハ外國慣例ニ多ク見ル所ナリ

本邦ニ於テハ此ノ如キモノ未ダ少ナシト雖後來漸次ニ生シ來ルヘク其小規模ノ如キハ往々ニシテ見ル所ナリ本條例ニ於テハ小作料中ニ總テ包含セシメ別ニ右ノ物件ノ借料ニ付キ規定スル所ナシ故ニ若シ此ノ如キ物件小作地ニ附屬シテ別ニ何等ノ契約モナカリシ時ハ後ニ其物件ニ付賃貸料ヲ請求スルコトヲ許サス既ニ其契約小作料中ニ包含セルモノト認ムルナリ然レトモ地主小作人合意上是等物件ニ付特ニ契約セル場合ハ本條例ヲ以テ敢テ干渉スル所ニアラス故ニ第二項ノ規定アル所

第八十條 小作人小作地ニ建物其他ノ附屬物ヲ増設又

ハ新設セントスルトキハ地主ノ承諾ヲ要ス

此場合ニ於テハ小作廢止ノ際ニ於ケル處分方ヲ定メ

書面ニ明記スヘシ

小作人カ建設物其他ノモノヲ増設セントスルトキハ従前ノ建設物ニ關係スルコト少ナカラス又新設セントスルトキモ小作地解約ノ場合ニ關係スルコト少ナカラルヘシ故ニ本條ニ於テ地主ニ通知シ承諾ヲ得猶且ツ廢止ノ際ニ於ケル處分方ヲモ定メ契約書ニ明記セシムルコト、セリ

第八十一條 小作契約ニ於テ耕牧上使用スヘキ機械、

農具、動物等ノ貸借ニ付テハ種目、員數及見積價格

並ニ修繕費ノ負擔及滅失ニ關スル處分方ヲ定メ書面

ニ明記スヘシ

小作人ニ小作地ト共ニ耕作收穫等ニ用ニル器械農具、家畜果樹等ヲ貸附セルトキハ其種類、員數、價格及修繕、死亡、滅失ニ際スル處分方ヲ豫メ契約書ニ明記シ置クトキハ小作廢止若クハ其他ノ場合ニ於テ紛議ヲ生スルトモ其契約書ニヨリテ容易ニ處決スルコトヲ得ヘシ故ニ本條ノ如ク規定セリ

第八十二條 小作人ハ小作廢止ニ際シ其所有ニ屬スル

小作地附屬物ヲ他ニ移轉セントスルトキハ廢止ノ日

ヨリ六十日以内ニ於テスヘシ

小作人前項ノ期間内ニ附屬物ヲ移轉セサルトキハ其

附屬物ハ地主ノ所有ニ歸ス

小作廢止ニ際シ建設物ヲ他ニ移轉スルニ即時之ヲ爲シ能ハサルノ場合アルヘキモ左リトテ長ク放置セラル、トキハ新入小作人又ハ地主ハ耕作準備其他ノ事ニ付迷惑ヲ感スルコトアルヘシ故ニ本條ハ其移轉期間ニテ適當ト認メシモノヲ規定セルナリ小作廢止後六十日間ノ餘裕アラハ之ヲ移轉スルニ充分ノ時日アリト信ス然ルニ小作人若シ移轉セサル場合ニ於ケル處分方ヲ定メサルトキハ本條ノ規定モ無効ニ屬スルヲ以テ斯ル場合ニハ小作人其物件ヲ放棄セルモノト見做シ地主ノ所有ニ歸セシメタリ

第八十三條 小作人前條ノ附屬物ヲ移轉スルニ當リ地

主ニ對シ小作料ノ未済其他ノ債務アルトキハ地主ハ

其附屬物ヲ留保スルコトヲ得

小作人ノ増設若クハ新設セシ建設物アルトキニ當リ小作人カ地主ニ對シ小作料ハ勿論賠償金或ハ其他ノ債務ヲ果サ、ルトキハ地主ハ其債權ノ擔保トシテ之ヲ留置スルコトヲ得セシメタリ是レ即チ地主ノ債權ヲ保護スルニ於テ便宜ナレバナリ

第八十四條 小作人第八十二條ニ依リ附屬物ヲ移轉セ

ントスルトキハ小作地ニ定着セル建物其他ノ物件ヲ

毀損スルコトヲ得ス

若シ毀損スルニ非サレハ他ニ移轉スル能ハサルモノアルトキハ豫メ地主ノ承諾ヲ要ス

地主ハ毀損ヨリ生スル賠償ヲ要求スルコトヲ得

本條ハ説明ヲ要スルマテモナク小作人カ据付物ヲ移轉セント

スルトキニ地主ノ所有タル家屋垣籬用悪水路道路植物等ヲ損傷セサルヲカムルハ至當ノ義務ナリ然レトモ右ノ物體ヲ損傷セサレハ移轉スルコト能ハサル場合ニハ地主ニ通知シ其損害ヲ與ヘタルモノハ原狀ニ復スルカ或ハ賠償ヲナサシムルコトセリ

第八十五條 小作人第八十二條ニ依リ附屬物ヲ移轉セントスルトキハ三十日以前ニ其種類ヲ表示シ地主ニ通知スヘシ

小作人カ附屬物件ヲ移轉スルニ突然申込ヲナス時ハ第八十六條、第八十三條及其他ノ場合ニ故障ヲ生スルヲ以テ三十日以前ニ通知セシメ充分ノ時日ヲ與フ可シ而シテ其通知ニ種類ヲ表示スルノ必要ハ第八十六條ニ依リ地主ニ買收權ヲ與ヘタルト第八十三條ニ依リ地主カ之ヲ留保スル場合アルヲ以テ直ニ其判定ニ便ナラシムルカ爲メニ外ナラス

第八十六條 地主前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ相當價格ヲ以テ其附屬物ヲ買取ルコトヲ得

但第八十條ノ場合ニ於テ設定行爲ニ特別ノ定メアルトキハ此限ニアラス

地主ノ承諾ヲ得テ小作人カ建設物ヲナシタルハ元ト其小作地ニ必要ナルニ起因セルナリ然ルニ小作人カ是ヲ移轉セントスルニハ取壊費運搬費再築費ヲ要シ且ツ其跡地ヲ原狀ニ復スル等ノ失費多ク又之ヲ急ニ賣却セント欲スルトキハ其價必ラス低廉ナルヘシ斯カル場合ニ能フヘクンハ地主ハ之ヲ購買シ新

入小作人ニ賣渡スニ如カサルナリ小作人ハ亦實際其建物ヲ地主ニ賣渡スモ利アリテ損ナカルヘシ然ルニ此ノ如キ義務ヲ地主ニ負ハシムルトキハ遂ニ必要ナル建物モ始メニ承諾セサルノ弊ヲ生スルニ至ランカ委ニ於テ地主其建物ヲ買收セントスルトキハ小作人ハ之ヲ拒ムコトヲ得サル義務ヲ負ハシメタリ本條ハ之ヲ要スルニ物件カ社會ニ對スル比較的必要ノ點ヨリ考慮セシニ他ナラス然レトモ始メニ地主ト小作人ト特別ノ契約ナシアリシモノニ對シテハ敢テ法律ニ依リ干渉スルノ必要ナシ故ニ但書ニ於テ之ヲ規定セリ

附 則

第八十七條 本條例ハ明治 年 月 日ヨリ施行ス

本條ハ本條例施行ノ期日ヲ確定セルモノナリ

第八十八條 本條例施行ニ關シ必要ナル規程ハ北海道

廳長官之ヲ定ム

本條ハ條例ヲ施行スルニ當リ其施行手續及其他必要ナル補助等ヲ發布スルノ權ヲ北海道廳長官ニ一任セルコトヲ定メタルナリ

第八十九條 従前ノ法令ニシテ本條例ニ抵觸スルモノ

ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

本條ハ條例ノ施行ニ付既ニ發布セラレタル諸般ノ法律命令ト本條例ト抵觸セル場合ニ於テハ舊法ハ新法ノ施行ト同時ニ廢止ニ歸スル旨ヲ規定セルモノニシテ蓋シ解釋上ノ疑議ヲ避ケタルモノナリ

第九十條 本條例實施ノ時本條例ニ違反セル小作契約

ハ本條例施行後三年間ニ之ヲ改ムヘシ

其永小作ノ契約ニ爲ルモノハ五年間ニ之ヲ改ムヘシ

本條ハ條例施行後及條例施行前ニ爲シタル小作契約ニ對シ違
法ノ點ヲ改正セシムル時期ヲ確定セルモノナリ其三ヶ年間ヲ
以テ程度トセルハ改正準備ノ期間ヲ推定セルニ過キス可及的
條例ノ施行ト共ニ改正ヲ希望スル所ナリト雖種々ノ關係ヨリ
シテ直チニ改正ヲ爲サシムルハ事實上困難ナルヘシ左リトテ
若シ任意ニ放擲セハ條例發布ノ實ヲ失スルヲ以テ最長期ヲ三
ヶ年ト爲シ其間ニ違法ノ點ヲ改正セシムルコトト爲セリ蓋シ
本條例ニ從ヒ契約ヲ改メシムルモ其根本ノ契約ヲ破壞スルモ
ノニ非スシテ單ニ手續上具備セサル點ヲ修正セシムルニ過キ
サレハ敢テ當事者ノ既得權ヲ本條ニ於テ制限セルモノニ非ス
第二項ニ永小作ノ改正期ヲ五ヶ年トセルハ永小作ハ民法上二
十年以上五十年以下ノ期間ヲ以テ契約ヲ締結セルモノナレハ
二十年以下ノ短期ノ小作契約ニ比シ其改正準備期間ヲ特別ニ
認タルモノナリ

二 内務省案 北海道小作法草按並理由書

第一條 本法ハ北海道ノ小作ニ適用スルモノトス

理由 小作ナル名稱ハ耕作牧畜ノ目的ヲ以テ小作料ヲ拂フテ土地ヲ使用スル場合ニ専用セラル、コト外國並ニ本邦ノ用例ナリ唯タ年期ノ長短ニヨリ法律上賃貸借ト云ヒ永小作ト云フト雖モ要スルニ小作ナル文字カ實際上一定ノ意味ヲ以テ慣用セラル、ノ事實ハ顯然ナリト認ム故ニ本條ニハ單ニ小作ト云ヒ別ニ定義ヲ附セス而シテ如何ナル條件ヲ以テスルヲ問ハス苟クモ本法ニ於テ小作關係ヲ生スル事實アレハ總ヘテ本法ノ適用ヲ受ケシメントス

第二條 小作契約ハ書面ヲ以テ締結スヘシ

理由 本法ハ府縣ニ於ケルカ如ク地主ト小作者トノ間ニ由來舊誼信用アルニ由リテ契約ヲナスモノニ非ス蓋シ小作人ハ各地ニテ募集ニ應ジタル鳥合ノ徒ニシテ地主ハ概ネ府縣ノ資本家ニ非サレハ新來奇利ヲ一攫セントスルモノナリ此ヲ以テ後日口約ノ據ルヘカラサルニ乘シ各事ニ託シ自己ノ利益ヲ主張シ毫モ憚ル處ナシ而シテ未タ此等ノ紛擾ヲ裁斷スヘキ一定ノ慣習成立セサルカ故ニ其結果地主ハ常ニ不應ノ損失ヲ被ムリ小作人モ亦困憊殆ント舉措ヲ失フノ厄ニ陷ヒルモノアリ此ヲ以テ從來ニ於テモ小作ハ大概書面ヲ以テ締結シ殆ント其例外ナキニ至レリ依テ本條ハ其例ニ從ヒ書面ヲ以テ其主要事項ヲ締結セシメ事端ヲ未然ニ防カントス

第三條 左ノ事項ハ契約書ニ明記スヘシ

二つの北海道小作法草按並理由書

- 一、小作地ノ地位及面積
 - 一、小作地使用ノ目的
 - 一、小作契約期間
 - 一、小作料額
 - 一、小作料納期
 - 一、小作料受渡手續及場所
 - 一、小作料増減、免除ノ場合
 - 一、肥料ノ種類用量、施用及負擔ノ方法
 - 一、小作地ニ於ケル道路、水路、堤塘、橋梁、柵垣
- 地形變更
- 一、土地改良等ノ費用及諸賦課負擔ノ方法
 - 一、小作人ノ日常遵守スヘキ義務
 - 一、期間中地主又ハ小作人カ任意ニ爲スヘカラサル事項
 - 一、作物ノ禁止及制限
 - 一、保證人ニ關スル事項
 - 一、契約ヲ變更スヘキ場合並其効果
 - 一、解除權ヲ留保スル場合並其効果
 - 一、立木ニ關スル事項
 - 一、地主又ハ小作人カ定時又ハ臨時ニ給スル勞力又ハ物件

理由 契約上必要ナル事項ヲ明記スヘキコトヲ豫メ規定シ置カスンハ第二條ニ依リ書面契約ヲ以テセサルヘカラサル規定ヲ設ケタル精神ヲ貫徹スル能ハサルナリ而テ列記ノ各項ハ本道小作ニ於テ必要ナル事項ノミヲ掲ケタリ

第四條 未開地ヲ開墾シテ小作地ト爲ス場合ニ於テハ前條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ契約書ニ明記スヘシ

- 一、墾成年限及開墾年割反別
- 一、開墾料額及付與ノ方法
- 一、歛下年限

一、小作地ヲ分與スルトキハ其方法

一、家畜、建物及井戸小屋掛料、農具、種子、食料又ハ臨時出費等ニ要スル金圓、物品ノ給付若クハ貸付並返還方法

一、保存林ニ關スル事項

理由 本條ハ地主カ契約ノ際未開地ノ借貸與シ之ヲ開墾シテ熟田トナサシメ引續キ小作料ヲ徴シテ耕作セシムル所ノ一種ノ小作ニテ通稱開墾小作ナルモノニ適用セントスルナリ而シテ本條ヲ設クル理由前條ニ同シ

第五條 小作權ノ存續期間ハ十ヶ年トシ開墾小作ニアリテハ十五ヶ年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ契約ヲナシタルトキハ前記ノ期間ニ短縮ス

理由 本道ニ於ケル小作契約ニ就キ其實際ヲ驗スルニ府縣ニ

比シテ其期間著シク短ク大抵普通小作ニ在ツテハ三年乃至五年開墾小作ニ在ツテハ之ニ歛下年期ヲ加ヘタルモノニ過キス稀レニ期間ノ明記ナキ契約書アルモノ之レ長期又ハ無期ノ謂ニ非ラスシテ年小作ナリ毎年之ヲ更新セントスルノ意思ナリ本道ニ於テ小作期間ノ短キ其レ此ノ如シ而ルニ尙且ツ履行圓滿ナラスシテ之ヨリ生スル關係ハ日ニ紛糾ヲ極メントスルノ状態ナリ本道ニ於テハ交通機關ノ發達、人口ノ増加、其他百般ノ事情ハ日ニ經濟社會ノ變動ヲ促カシテ朝ニ炊烟稀レナルノ處夕ニハ百貨集散ノ要地ト化シ其勢殆ント底至スル所ヲ知ラサルカ如シ若シ最長期五十年ニ至ルモ經濟上優者ノ主張ニ放任シテ顧ミサルトキハ單リ契約當事者ノ不利益ナルノミナラス大ヒニ本道ノ進歩ニ障礙ヲ加フヘシト信ス之レ小作期間ハ十年限ト爲シタル所以ナリ

第六條 小作契約期間ヲ更新スルトキハ少クトモ其ノ滿了六ヶ月以前ニ之ヲナスコトヲ要ス但更新ノ時ヨリ前條ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

理由 滿了後更ニ小作ヲ繼續スルヤ否ヤハ滿了ノ期ヨリ六ヶ月前ニ決定シ置カサレハ滿了ノ際ニ臨ムテ地主ハ新ニ小作人ヲ得ル能ハサル爲メ農季ヲ誤リ土地ヲ荒廢ニ委セサルヘカラサルニ至リ小作人ハ新ニ小作地ヲ得ル能ハスシテ生業ノ途ヲ失フニ至ル之レ本條ニ依リ半年ノ時日ヲ與ヘテ其ノ弊ヲ補ハントスル所以ナリ而シテ更新後ノ存續期間ハ民法ノ適用ニ依リ更新ノ時ヨリ起算スヘシトス

第七條 小作人ハ書面ヲ以テ地主ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ他人ニ其權利ヲ讓渡シ又ハ轉貸スルコトヲ得ス

理由 地主ノ承諾ノ有無ヲ明ニセン爲メ民法第六一二條ノ規定アルニ係ハラズ本條ヲ設ケテ殊ニ書面ヲ用ヒシメ以テ第三條ノ精神ニ應セシメントス

第八條 地主カ小作地ノ全部又ハ一部ヲ無料ニテ道路水路其他公益上ノ事業ニ供スルトキハ小作人ハ之ニ

因テ生シタル損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

理由 一旦小作地トナシタル土地ト雖モ地主ニシテ道路水路ノ施設又ハ學校建設ノ爲メニ之ヲ其敷地トシテ寄附セントスルハ本道一般ノ進捗ニ裨益アルヲ以テ本條ハ其ノ途ヲ啓キテ其ノ美ヲ成サシメントスルノ精神ナリ而テ單ニ無償ノ場合ニ限レルヲ以テ地主其間ニ私利ヲ營ムノ餘地ナシト信ス

第九條 地主又ハ小作人ハ契約後五ヶ年毎ニ小作料ノ變更ヲ求ムルコトヲ得

理由 本道經濟事情ノ變動ハ第七條ノ下ニ於テ陳フル所ノ如シ而テ就中著シキモノハ土地價格ノ變動ニシテ從テ小作料ノ高低殆ソト常態ナシ依テ本條ニヨリテ契約後五年ヲ經過スルトキハ地主又ハ小作人ニ小作料變更ノ權利ヲ與ヘ以テ社會一般ノ狀態ニ伴ハシメントス

第十條 一年二作以上ノ收穫アル小作地ニ於テハ其主ナル作物ニ依テ免除減額ノ料ヲ定ム

理由 一年二作以上ノ收穫アル地ニ在リテハ表作裏作ノ孰レニ依リテ免除減額ヲ定ムヘキカノ標準ヲ一定シテ紛議ヲ決スルノ必要アリト認ム

第十一條 小作地ノ所有權ニ關シ異動アリタルトキハ

地主ハ直ニ之ヲ小作人ニ通知スヘシ

理由 地主小作地ヲ讓渡シ又ハ之ヲ債務ノ擔保ニ供シタル場合ニ於テハ其結果小作人ト讓受人又ハ其他ノ物權ヲ取得シタル第三者トノ間ニ小作料ノ受拂等種々ノ關係ヲ生スヘキヲ以テ小作地所有權ニ關スル異動ヲ通知セザルトキハ小作人ハ不測ノ損害ヲ被ムルヘシ依テ小作人ノ利益ヲ保護スル爲メ之ヲ地主ノ義務トシタル所以ナリ

第十二條 小作權ハ其設定後小作地ニ付物權ヲ得タルモノニ對シテモ効力ヲ有ス

理由 小作權ハ小作地ノ買受人抵當債權者又ハ其他ノ物權ヲ取得シタル者ニ對シテハ其効力ヲ有セストセハ小作者ノ運命ハ常ニ地主ノ左右スル所トナリテ小作權ノ保全得テ庶幾スヘカラス何者小作者ハ此等ノ變動アル毎ニ更ニ他ノ小作地ヲ求ムルノ勞ヲ執ラサルヘカラス若シ又タ從前ノ地ニ於テ小作ヲ繼續セントセハ新ニ第三取得者ト其契約ヲ締結セサルヘカラス而テ第三取得者ハ小作料ノ騰貴ヲ要求シ又ハ小作者ニ與フヘキ補助ヲ廢シテ小作者ノ義務ヲ加フル等百方自己ノ利益ヲ主張スルヲ以テ小作者ノ窮迫實ニ名狀スヘカラサルニ至ラン此ヲ以テ本條ハ小作權ヲシテ此等第三取得者ノ追及ヲ免レシメ小作權ノ保全ヲ期シ本道拓殖ノ進捗ニ裨益ヲ與ヘントス

第十三條 小作人ハ小作地ノ保存ニ必要ナル豫防ヲナシ又ハ現狀ニ異變アルトキ之ヲ地主ニ通知スヘシ

理由 本道小作地ニ於テ雨雪ノ後汚水ヲ排シテ土地ノ荒廢ヲ避ケ又ハ境界柵垣ヲ設ケテ崩壞ヲ防クカ如キ小作地ノ保存

ニ必要ナル施設ハ小作人之ヲ負擔スルヲ通例トス依テ民法第六〇六條ノ規定アルニ係ハラハス特ニ小作人ノ義務トシタル所以ナリ

未文現狀異變ノ通知ハ説明ヲ俟タスシテ明ナリ

第十四條 小作人小作地ノ作物ヲ債務ノ擔保ニ供セントスルトキハ地主ノ承諾ヲ經ヘシ

理由 小作地ノ作物收穫後ノ處分ハ元來小作人ノ權ニ屬ス而

レトモ往々密カニ作物ヲ賣却シ或ハ抵當ニ供シテ逃亡スルノ弊行ハレ爲メニ地主ノ損害ヲ被ムルモノ少カラズ依テ本條ハ地主ノ承諾ヲ得セシメ其弊ヲ除カントス

第十五條 開墾小作地ノ所有權力第三者ニ移轉セントスルトキ開墾小作人ハ同一條件ヲ以テ其第三者ニ先

クツテ之ヲ買取ルノ權ヲ有ス但其土地ヲ競賣ニ付スヘキ法令ノ規定アルトキハ評定價格ヲ以テ之ヲ買取ルコトヲ得

理由 本條ハ開墾小作人ニ土着永住ノ機會ヲ與ヘ以テ土地兼併ヲ防キ分有ヲ獎勵シ獨立ノ農民ヲ得テ自治ノ地ヲナサシメントスルノ精神ナリ而テ小作者ヲシテ同一條件ヲ以テ買取ラシムルトキハ地主ニ於テ毫モ損失ヲ被ムルコトナカルヘシ破産家資分散又ハ抵當權ノ行使等ニ因リ法令上競賣ニ附スヘキ土地ニ在リテハ評定價格ヲ以テ買ヒ取ラシメントス

第十六條 小作地返付ノ時ニ至リ小作人尙ホ作物ノ收

穫ヲ終ラサルコトアルトキハ小作期間終了後ト雖モ

地主又ハ新小作人ハ舊小作人ノ收穫ヲ妨クヘカラス

理由 小作地返付ノ期ニ至リ氣候ノ變ニ因リ成熟季節後レ又

ハ其他ノ止ムヘカラサル事由ニヨリ期日迄ニ其ノ收穫ヲ了ラサルトキハ舊小作人ヲシテ其收穫ヲ了ヘシムルノ必要アリ而テ地主又ハ新小作人ニ於テモ之レニ因リテ甚タシク損害ヲ被ムルノ虞ナカルヘシ何者舊小作人故意ニ收穫ヲ怠ルトスルモ徒ラニ收穫期ヲ怠リ作物ノ腐爛ヲ顧ミサルカ如キ輕舉ニ出ツルモノナカルヘケレハナリ

第十七條 小作期間滿了又ハ解約ノ年地主若クハ新小

作人小作地内ニ於テ耕牧ノ準備其他必要ナル事業ヲナサントスルトキハ小作人ハ小作地返付前ト雖モ作物收穫後ナレハ之ヲ妨クヘカラス

理由 地主若クハ新小作人カ小作地ニ立入り耕牧ノ準備ヲ爲スモ小作終了ノ年ニシテ且作物收穫後ナルヲ以テ舊小作人ニ於テ毫モ損失ヲ受クルノ理由ナシ

第十八條 小作期間中地主若クハ小作人ハ左ニ掲クル

場合ニ於テ解約ヲ要求スルコトヲ得

一、小作人破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

一、地主又ハ小作人死亡セシトキ

地主ハ左ノ場合ニ於テ解約ヲ要求スルコトヲ得

一、小作人小作料ヲ怠納セシトキ

小作人ハ左ノ場合ニ於テ解約ヲ要求スルコトヲ得

一、小作地ノ全部又ハ一部荒地トナリタルトキ
一、小作地ノ全部又ハ一部六ヶ月以上耕牧スルヲ得
サルカ又ハ引續キ二ヶ年以上小作料ヨリ少キ收益
ヲ得タルトキ

理由 本條ハ小作ノ解除ヲ要求シ得ヘキ場合ヲ列舉シタルモ
ノニシテ

(一) 地主又ハ小作人死亡セシトキ

府縣ニ於ケル如ク地主ト小作人トノ間ニ密接ノ關係存在
セサル以テ生存者ノ意思ニヨリ解除ヲ爲スヲ得セシメン
トス

(二) 小作人小作料ヲ意納セシトキ

本道ニ於テハ小作料意納ノ弊盛シニ行ハレ從テ之ヨリ生
スル損害實ニ甚シ之レ殊ニ民法二百七十六條ノ如ク二年
分ノ意納ヲ待タス直ニ解除ノ要求ヲナスヲ得セシメント
スル所以ナリ

(三) 小作地ノ全部又ハ一部荒地トナリタルトキ小作人破産
ノ宣告ヲ受ケシトキ及二年以上小作料ヨリ少ナキ收益ヲ
得タルトキ

民法ニ規定セルモノナレトモ殊ニ列記事項中ニ加ヘテ本
條ニ一括シ以テ其關係ヲ明了ナラシメントス

第十九條 解約ノ場合ニ於テハ小作人ハ其年ノ十二月

三十一日迄ニ小作地ヲ返付スヘシ

理由 十二月末日ト定メタルハ本道ノ現狀ニ據リタルモノニ

二つの北海道小作法草按竝に理由書

シテ之レ已ニ收穫ヲ終リ將ニ後次ノ農季準備ニ入ラントス
ルノ時ナリ若シ之レヲ經過スルトキハ農季ヲ誤リ作物ノ成
熟ヲ害シ生産ヲ減スルノ虞アルヲ以テ豫メ之ヲ一定シ置ク
ノ必要アリ

第二十條 小作契約期間中ハ其年十二月三十一日ヨリ

六ヶ月以前ニ申込ヲ爲シタルモノニ限り自己ノ便宜
ニ依リ解約スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ小作料一年分ノ半額ニ當ル金額
ヲ賠償トシテ他ノ一方ニ與フヘシ

理由 十二月末日ハ將ニ後次ノ農季ニ入ラントスルノ時ナル
ヲ以テ其六ヶ月以前ニ解約ヲ申入ルルトキハ翌年ノ農季迄
ニハ地主小作人トモ充分ノ餘日ヲ有シ不測ノ損害ヲ被ムル
コトナキヲ以テ賠償額ヲ一定シテ解約ヲナスノ便ヲ設ケ置
クコト至當ナリト考フ而テ其賠償トシテ一年分ノ小作料ノ
半額ヲ與ヘシムルハ失當ノ標準ニ非サルヘシ

第二十一條 小作地ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ地主及

小作人ハ小作契約ニ係ル總テノ義務ヲ辨濟スヘシ

小作人小作權ヲ讓渡シタルトキモ亦前項ニ同シ

理由 本道ニ於テハ地主小作者共ニ土着世住ノ人民ニアラス
シテ固ヨリ舊誼信用ノ存スヘキ由ナシ此ヲ以テ一旦地主小
作地ヲ他人ニ讓渡スカ又ハ小作人去リテ他ノ小作人トナル
トキハ其ノ間實ニ犬猿異越番ナラス甚シキニ至リテハ便ニ
據リ利ニ乘シテ互ニ其債務ヲ免レンカ爲メ故ラニ中途解約

ヲ爲シ又ハ小作地ヲ讓渡セント企ツルモノアリ依テ苟クモ小作關係ヲ絶ツノ曉ニハ時ヲ移サス必ス其債務ノ辨濟ヲ果サシメサレハ復タ其履行ヲ強フルノ便ナシト信ス

第二十二條 小作人ヲ誘出シタルモノハ其地主ニ對シ小作人ト連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

理由 本條ニ於テ小作人ヲ誘出シテ自己ノ農場ニ小作セシムルノ弊熾ニ行ハレ争ツテ其非行ヲ遂ケントスルノ有様ナリ而メ小作者ノ多クハ資産ナキ者ナルヲ以テ假ヘ之ニ對シテ最終ノ強制手段ヲ盡スモ到底地主ハ完全ナル賠償ヲ得ルノ見込ナキナリ依テ誘出者ヲシテ其責ヲ分擔セシムルコトヲ尤モ至當ノ方法ナリトス

第二十三條 開墾小作ニ於テハ左ノ期間ヲ經過シタルトキハ其翌年ヨリ適應ノ肥料ヲ施用スヘシ

- 一、草原開墾地ニ付テハ墾成後 三年
- 一、樹林開墾地ニ付テハ墾成後 五年

理由 小作人ハ地力減耗ノ如キハ直接ニ其痛痒ヲ感セサルヲ以テ専ラ收穫ノ多キヲ貪リ無肥耕作ヲ行ヒ收穫少キニ至レハ去リテ他ノ肥沃ナル農場ニ移ル而テ地主モ亦新開地ナルヲ以テ肥培ヲ施サスシテ無盡ノ收益ヲ得ヘシト誤信シ棄モ之ヲ念トセス之レ所謂掠奪農法ニシテ其結果異日頗々トシテ荒地ニ歸スルモノ多キニ至ラン依テ本條ハ負擔者ノ地主又ハ小作人タルトヲ問ハス一定ノ年限後ハ適當ノ肥培ヲ施用セシメントス而メ施肥ノ始期ハ本道ノ實驗ニ據リ定メタリ

第二十四條 支廳長ハ小作地ニ必要ナル用惡水路、道路、橋梁、柵垣等ノ新營修理ヲ地主又ハ小作人ニ命スルコトヲ得

理由 小作地ニ於ケル道路、水路、橋梁ノ如キハ農業經濟上尤モ必用ナルモノナリ而シテ地主小作人ハ互ニ其責ヲ嫁セントシテ之レカ新營修理ヲ怠リ爲メニ農作及運輸ノ上ニ於テ莫大ノ不利益ヲ醸セリ依テ之ヲ督勵セン爲メ支廳長ヲシテ適當ノ處分ヲ爲サシメントス

第二十五條 地主小作地所在ノ區町村役場(區戶長)管内ニ居住セサルトキハ其管内ニ代理人ヲ置キ小作地ヲ管理セシムヘシ

理由 大農場ニ在リテハ地主ハ其地ニ住居ヲ有セサルモノ多シ依テ管理人ヲシテ官廳又ハ小作人ニ對シ小作契約ヨリ生スル諸般ノ事務ヲ處理セシメントス

第二十六條 北海道廳長官ハ小作取締ノ爲メ小作人ヲシテ小作證札ヲ所持セシムルコトヲ得

第二十七條 小作證札ハ區町村役場(區戶長)ニ於テ下付スルモノトス

第二十八條 小作證札ヲ所持スルモノニアラサレハ小作契約ヲナスコトヲ得ス

第二十九條 小作ノ設定滿了及解除ノ際ハ地主ハ小作證札ニ捺印スヘシ

第三十條 地主ノ承諾アルニアラサレハ小作人ハ第三

者ト新ニ小作契約ヲ締結スルコトヲ得ス

第三十一條 第三十三條乃至第三十五條ニ違背シタル

モノ及違背シタル契約ノ各當事者ハ二十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

理由 (第二十六條乃至第三十一條)

本道ノ小作人ハ新來島合ノ群ニシテ土着愛郷ノ念ナキモノナリ故ニ自己ノ利益アル場合ヲ視テハ直ニ去リテ之ニ赴ムキ毫モ地主ノ利害ヲ顧ミス亦タ社會ノ擠斥ヲ念トセス實ニ或農場ノ如キハ小作人ノ二割ハ逃亡スルモノト豫想シ置カサルヘカラスト云ヘリ之ニ因リテ地主ノ被ムルヘキ損害ハ年々巨額ニ達スルト云フ之レ職トシテ取締法ノ完備セサルニ由ラスンハアラス故ニ小作證札ノ法ヲ設ケテ小作ノ逃亡ト地主ノ誘出トヲ取締ラシメントス

各條ニ就テハ説明ヲ要セス

第三十二條 第二十七條乃至第三十一條ハ第二十六條

ヲ適用スル場合ニ限リ之ヲ適用ス

理由 第二十七條乃至第三十一條ハ小作證札ヲ所持セシムル場合ニノミ適用セントスルノ精神ナリ

第三十三條 小作契約ニ關スル民事訴訟ニシテ區裁判

所ノ裁判權ニ屬スルモノハ先ツ地元區町村長(區戶長)ノ仲裁ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ區町村長(區戶長)ハ申請又ハ職權ニヨリ係争中假ニ財産ヲ差押フルコトヲ得

二つの北海道小作法草按並に理由書

理由 小作關係日ニ紛糾ヲ極メ之ヨリ生スル事端ノ其跡ヲ絶

タサルハ事實ノ證明スル所ナリ而リト雖モ區裁判所スラ尙

數十里ノ外ニ在リテ道路交通ノ便開ケス加之訴訟ノ目的ハ常ニ小額ナルヲ以テ複雑ニシテ寧ロ丁重ニ過キタル訴訟法ニ依リ訴權ヲ伸張セントスルモノ無ク概ネ手ヲ收メテ遷延

日ヲ曠クシ正義ノ要求ハ遂ニ容赦ナキ時効ノ進行ト共ニ其効力ヲ失フニ至ル

依テ本條以下ニ於テ特別ノ機關ト手續トヲ設ケ完全ニ小作上ノ權義ヲ確保セント欲ス而テ其範圍ハ區裁判所ノ權限ニ屬スル民事訴訟ニ止マリ且ツ裁判所構成法ニ於テ類似ノ規定アルヲ以テ敢テ司法制度ヲ亂スノ術ヲ作ルト云フヘカラス

本條ハ先ツ町村長ノ仲裁ニ附セシメントスルノ精神ナリ蓋シ町村長ハ直接ノ行政機關ニシテ且地元ニ在リテ能ク其事情ニ精通スルカ故ニ其仲裁自ラ公平親切ナルヘキヲ以テ良好ノ結果ヲ奏スルヤ必スヘシ而ルトキハ兩者ノ感情ヲ害スルコト無クシテ各自ノ義務ヲ履行シ地方ノ平和ヲ維持スルニ於テ意外ノ利益ヲ收ムヘシト信ス

第二項

町村長ノ仲裁ニ附シタルトキ到底勝訴ノ見込ナキヲ慮リ密カニ財産ヲ隱蔽シテ債權者ヲ害セント企ツルモノナキヲ保

セス依リテ町村長ニ於テ必用ト認ムル場合ニ於テハ事件落着迄假リニ財産ヲ差押フルコトヲ得セシメントス

第三十四條 地主又ハ小作人ハ區町村長(區戶長)ノ

着迄假リニ財産ヲ差押フルコトヲ得セシメントス

仲裁ニ依リ和解ヲ爲シタルトキハ同事件ニ付再ヒ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

理由 本條ハ仲裁ノ効力ヲ規定セリ

第三十五條 區町村長(區戸長)ノ仲裁ニ服セサルモノハ七日以内ニ管轄區裁判所又ハ北海道廳支廳長ニ訴訟ヲ提起スヘシ

此期日ヲ經過シテ出訴セサルモノハ和解シタルモノト認ム

理由 町村長ノ仲裁ヲ不當ト考フモノニハ其理由ノ如何ニ係ハラス進ムテ第一審第二審ノ裁判ヲ要求セシメテ訴權ノ厚薄ニ徑庭ナカラシメントス而テ區裁判所ノ外殊ニ北海道廳支廳長ニ出訴スルヲ得セシメタルハ前キニ第二十六條ノ下ニ於テ概陳シタル理由ニ由ル

仲裁ノ効力ヲシテ長ク不確定ノ有様ニ在ラシムルハ恰モ裁判ノ判決アリテ執行ナキト同一ノ事情ニシテ不良ノ結果ヲ生センコト明ナリ之レ仲裁ノ決定後出訴スルニ至ル迄ノ時日ヲ一定シタル所以ナリ而シテ出訴ニ至ル迄七日ノ猶豫ヲ與フルトキハ其手續ヲ爲スニ充分ナリト信ス

第三十六條 前條ノ場合北海道廳ニ於テ支廳長ハ區裁判所ト同一ノ職權ヲ有ス但民事訴訟法ニ準據シ便宜上之ヲ取扱フ

理由 本條ハ前條ノ場合ニ於ケル支廳長ノ司法上ノ職權並ニ裁判取扱手續ヲ規定シタルモノニシテ其取扱手續ノ如キ全

然民事訴訟法ニ據リテ出訴ハ文書ヲ以テシ文書ニハ訴訟印紙ヲ貼用スル等正式ノ手續ヲ履マサルヘカラストセハ之レ則ハチ支廳長ニ出訴スルノ便ヲ啓キタル理由ノ一半ヲ失フニ至ラン依リテ實際上便宜ニ反セサル限りニ於テ訴訟法ニ準據セシメントス

第三十七條 區裁判所又ハ北海道廳支廳長ハ前條ノ場合ニ於テ文書ノ送達又ハ強制執行等ノ訴訟事務ヲ北海道廳支廳屬又ハ區町村(區戸長)吏員ニ施行セシムルコトヲ得

理由 支廳長ハ全然執達吏等ノ司法機關ヲ有セス又區裁判所ハ之ヲ有スルモ遠ク僻遠ノ地ニ派遣スルハ時宜ニ應セザルノ憾ナキヲ保セス依リテ共ニ支廳書記又ハ町村ノ收入役ノ如キ下級行政官ヲシテ之ヲ施行セシムルノ特例ヲ設ケントス

第三十八條 財産差押ヲ爲ストキハ訴訟請求額並差押其他ノ費用ニ滿ツルマテ左ノ區別ニ從ヒ第一類ヨリ逐次差押ヲナスヘシ

第一類 貨幣、地金銀、有價證券其他第二第三第四類ニ屬セサルモノ

第二類 牛馬

第三類 農具

第四類 種子、肥料

理由 農家特別ノ事情ニ據リ差押フヘキ物件ノ類ヲ分チ須要

理由 本條ハ前條ノ場合ニ於ケル支廳長ノ司法上ノ職權並ニ裁判取扱手續ヲ規定シタルモノニシテ其取扱手續ノ如キ全

ノ度ニ應シテ差押ノ前後ヲ分タントス

第三十九條 差押フルヘカラサル物件左ノ如シ

一、時服、着替家族各壹通

一、夜具家族各壹通

一、鍋、釜、炊具各壹通

一、食料十五日分

一、現ニ使用中農具及牛馬並其飼料十五日分

一、又小作人ノ作物

一、勳章又ハ官廳其他ヨリ付與シタル特別ノ徽章アル物件及賞品

ル物件及賞品

理由 民事訴訟法第五百六十八條ニ於テ差押物ニ關スル類似ノ規定アルモ小作關係ニ於テ特ニ規定スヘキ場合及反對ノ規定ヲ設クヘキ場合アリ且ツ訴訟法中農家ニ於テ常發シ得ヘキ二三ノ點ヲ明示シテ其適用ヲ正確ナラシムルノ利アルヲ認ムルヲ以テ共ニ本條ニ列記シタリ

第四十條 差押ヘタル生長中ノ作物ハ自餘ノ物件ヲ賣却シ尙不足アル場合ニ限り成熟ノ後競賣ニ附スヘシ

理由 未タ成熟期ニ至ラサル作物ニ對シテハ差押ヲ許スト雖モ強制競賣ハ最後ニ之ヲ行フヘク若シ又競賣ニ附スヘシトセハ成熟ノ後ニスヘシト規定シタルハ手入肥培等作物ノ成熟ニ沮害無カラシメ以テ收穫ノ減耗ヲ避ケントスルノ精神ナリ

第四十一條 差押中動物ノ飼養又ハ作物ノ手入、肥培

收獲ハ總テ小作人ノ負擔トス

但小作人ハ差押ヘラレタル飼料及肥料ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

理由 差押ヘタル動物ノ飼養並ニ作物ノ手入等ハ小作人ヲシテ其責ニ任セシムルヲ以テ尤モ親切ニシテ精巧ナルヘシト考フ又タ小作人ハ飼養手入ヲ盡シテ總財產ノ缺損ヲ防キ債權者ヲ害セサランコトヲ努ムヘキハ當然ノ本務ナルヘシ

第四十二條 財産差押ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シタルモノハ刑法第三百九十六條ノ例ニ依ル

理由 本條ハ將ニ差押ヘントスル際財産ヲ藏匿脱漏セントスルモノヲ處罰セントス蓋シ刑法第二百八十八條ニハ差押ノ前後ヲ含ミ得ヘシト雖モ家資分散ノ場合ノミニ限リ又刑法第三百九十六條ハ一般ノ場合ニ適用スヘキモ已ニ差押ヘタル後ノミノ規定ナレハナリ

第四十三條 本法ハ明治三十年月日ヨリ之ヲ施行ス

理由 本道ニ於テ永小作ヲ適用セサル理由ハ第五條ノ下ニ於テ陳ヘタルモノニ同シ

第四十五條 本法實施ノ時現存スル小作契約ハ來ル明治 年 月マテニ本法ニ之ヲ更ムヘシ

說明ヲ要セス

二つの北海道小作法草按竝に理由書

附 則

第四十四條 北海道ノ小作ニ於テハ民法永小作權ノ規定ヲ適用セス

理由 本道ニ於テ永小作ヲ適用セサル理由ハ第五條ノ下ニ於テ陳ヘタルモノニ同シ

第四十五條 本法實施ノ時現存スル小作契約ハ來ル明治 年 月マテニ本法ニ之ヲ更ムヘシ

說明ヲ要セス

理由 本道ニ於テ永小作ヲ適用セサル理由ハ第五條ノ下ニ於テ陳ヘタルモノニ同シ

第四十五條 本法實施ノ時現存スル小作契約ハ來ル明治 年 月マテニ本法ニ之ヲ更ムヘシ

說明ヲ要セス

理由 本道ニ於テ永小作ヲ適用セサル理由ハ第五條ノ下ニ於テ陳ヘタルモノニ同シ